

津別町第6次総合計画

令和5年度 進捗評価シート

(令和2年度～令和11年度)

令和6年8月
津別町

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-1 子育て支援の充実「子育てしやすく子どもがすくすく育つ 子育て世代に選ばれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎津別の子どもたちが町外へと巣立ってからも、「津別の子育て環境の良さ」を思い返し、「子育てをする場」として再び津別に戻ってくるまちとなっています。</p> <p>◎子育て世代が住みたいと思う環境(働く場・住居・生活環境)が整っており、「子育てする場・暮らしの場」として選ばれるまちとなっています。</p> <p>◎町民が子育てのしやすさを実感し、さらには町外にも発信され移住者が増加しています。</p> <p>◎小さな子どもから中高生まで、子ども一人ひとりが気軽に安心して過ごせる居場所があります。</p>	<p>[1-1-1] 子育て情報の充実と「子育てしやすいまち」としての発信強化</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・津別町の子育てサービス・支援制度の情報発信: 令和5年度から新たに「妊娠・出産・子育てに関するサービス一覧」の冊子を作成。妊娠時～就学前のお子さんを持つ保護者向けのサービス・支援制度をわかりやすくまとめ、主に母子手帳交付時、赤ちゃん訪問、転入者への案内として活用した。</p> <p>・子育て情報の発信: 令和2年度から「つべびい」母子手帳・子育て支援アプリを導入。母の健康記録、子の成長記録、予防接種管理などの母子手帳機能の他、地域の子育て情報の発信を行った。R6.3月末現在、86件のユーザー登録(前年度比5件増)。地域の子育て情報は、R5年度18件発信。うち、11回乳幼児健診・乳幼児相談会について定期的に配信を行った。また、産後ケア事業やこども園の入園受付開始などのご案内も行った。</p> <p>・子育て家庭のニーズ把握: 例年は子ども・子育て会議などをニーズ把握の場として活用したが、令和5年度は子ども子育て支援事業計画の策定に伴うニーズ調査を実施した。集計結果は、子ども子育て会議にて共有しており、令和6年度中に策定予定の子ども・子育て支援事業計画に反映する。</p>	<p>・アプリについて、母子手帳交付時や赤ちゃん訪問でPRしているが、最近は類似したアプリも増え実際にその後使用しているか実態がわかっていない。</p> <p>・アプリ内で配信するニュースの内容が定まっておらず、アプリを利用するメリットにつなげられていない。</p> <p>・子育てに関する情報をアプリ管理を担当している健康推進係で集約できていない。</p> <p>・令和5年度は計画策定に伴うニーズ調査を実施したが、例年は実施しておらずニーズを把握する機会が不十分である。</p>	<p>・個別勧奨と、乳幼児相談会などのイベント時にアプリのメリットを伝えていく。また、利用者からの声を直接確認し活用方法の見直しを行っていく。</p> <p>・引き続き出生相談時、子育て世帯の転入時など、子育てに関する制度などの周知を行い、必要な方に適切に情報が届くようにする。</p> <p>・ニュースの内容を検討し、定期的に配信できるようにする。</p> <p>・子育て家庭だけでなく、こども園や子育てサークルなどと連携しながらニーズ把握を行う。</p>	<p>【提案】 ご尽力ありがとうございます！ 他にもいえることですが、情報量が必要なものが届いているのであれば、定期配信も大変になるので必要ないかもと思います。 それよりも教育とかひとかたまりの情報の中に子育てコーナーがあれば、広く情報キャッチ出来ると思うので、他の部署と連携して情報発信そのものを統一する方向も検討してみても良いかと思います。</p> <p>【提案】 赤ちゃんのインフルエンザワクチンは美幌国保で対応していましたが、病院側が設定していた予約開始日を過ぎてから町ホームページでワクチン接種の助成のお知らせがされていたので、それから病院に予約電話した頃には一月先まで予約が埋まっている状況があったため、早め早めの情報発信をお願いしたいです。</p> <p>【評価】 アプリによる情報発信・共有は良い取り組みだと思うが、発信の頻度や有益な情報、情報量が少ないと定着しにくいのではないか。</p> <p>【評価】 子育て環境は素晴らしいと思いますし、これからも子育て世代にアピールしてください</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-1 子育て支援の充実「子育てしやすく子どもがすくすく育つ 子育て世代に選ばれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[1-1-2] 子育て世代のニーズにあった支援の充実	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・出産子育て応援事業(妊娠時に5万円、出産時に5万円を支給)を実施 →合計22件 ・R3年度から乳児健診(3～4、9～10か月児)を医療機関へ委託 →R5年度の受診率:3～4か月94%、9～10か月100%。 ・R3年度から開始した乳幼児相談会事業を継続して実施。生後2か月～就学前までの乳幼児を育てる保護者を対象に隔月1回実施。 →R5年度は計6回実施し、合計44組の親子の参加があった。 ・R4年度より3歳児健診にて弱視の発見率を高めるために屈折検査機器を導入。 →R5年度は21人受診中、4人が要精密検査となっている。 ・産後ケア事業について、利用可能な事業所を1か所増やした。 →令和5年度の利用率は37%。申請率は88.9%。初産婦の利用が多い。 ・子ども・子育て支援事業計画に基づく事業の推進について:子育て家庭への支援や、支援を必要とする子どもや家庭への取り組みの推進、仕事と子育ての両立を支援する環境整備などの各種事業について、保健福祉課、生涯学習課その他の関係課で役割分担・連携しながら進めている。(各種事業の主な進捗状況は、別項目で掲載。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児相談会の自由参加者が少ないこと。 ・プレママ学級、育児学級等の参加者が1組となり、集団となりにくいこと。 ・3歳児健診で精密検査対象では受診できている方がほとんどだが、一部は未受診のままになっており、保健師が促しても受診につながらないことがある。 ・産後ケアの申請率は高いが、実際に産後必要とする母親が適切なきに利用できているか実態が不明。 ・こども家庭センターの設置が国から求められているが、令和5年度末時点で未設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別訪問時に相談会への気軽な参加を促す。新たな相談ブースの拡充(皮膚ケア相談) ・母子手帳交付時に教室開催の日程の周知をする。1組でも開催し、妊産婦に対する情報提供の場を確保していく。 ・精密検査対象者の管理、個別でのアプローチ方法について係で検討していく。 ・引き続き産後ケア事業について、妊娠中、出産後に周知。 ・こども家庭センターの設置に向け、当町の体制を検討していく。 	<p>【提案】 乳幼児相談会は流れ作業で忙しそうなので、よほどのことがないとふらっと自由参加しようという気持ちにならないのかもかもしれません。子育て支援センターや病院など他にも相談先があるので、乳幼児相談会にこだわらず気軽に相談できる場所が充実していただきたいと思います。そういうところとも孤立した母子に対して個別訪問するなど対応が必要かと思えます。産後ケア事業については何かのタイミングでニーズ調査を試みてほしいです。金額や回数が多く助かりますが、(近隣に事業者がなさそうですが)ベビーシッターや家事代行、産後ケアホテルなどにも使えたらいいと思います。選択肢が増えると利用に繋がるのではと思いました。</p> <p>【評価】 支援はとても充実していると思います。若い世代が支援の充実を感じて津別で安心して子育てできるように継続願います。</p>
	[1-1-3] すべての子どもの安全・安心な居場所づくりの推進	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館事業・放課後児童クラブの充実 感染症対策の緩和により、児童館の一般自由来館が再開され、児童クラブと児童館(放課後子ども教室)が連携して、児童の安心安全な居場所の確保ができた。また、遊びの充実も取り戻した。(1日平日平均60名程度利用/全児童152名)→児童クラブ62名、準児童クラブ10名、児童館一般利用登録36名、27事業を展開(アソビバ事業との連携も含む) ・アソビバ!つべつの充実 感染症対策の緩和により、宿泊体験事業を復活することができ、子どもたちの学びや体験がより深まる場を提供することができた。また、農業・林業・歴史・運動教室など津別の自然や環境を活かした貴重な体験が提供できた。公式LINEを立ち上げ、申込や保護者との連絡を改善できた。→年間20事業実施、登録者58名、延参加人数400名 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館利用者が多くなったことで、より安全の見守り体制が必要だが、指導員不足が生じている。 ・児童クラブやアソビバの連絡ツールや情報配信などをICT化したいが、無料で都合のよいアプリやシステムがなかなか見つからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館運営については、関係機関と協議し、児童館のあり方を検討する。 ・ICT化 ・量より質の向上、価値観向上 	<p>【提案】 たくさんの試みありがとうございます。情報発信について、公式ラインなど津別町は進んでいるように思います。次に考えられるのは2chみたいなもので、町全体の掲示板となるディスコードやSlackの活用も手段かと思いますが、普及が難しそうです。町として公式ラインにお金をかけて子育てや災害など統一して情報を流せる仕組みはどうかとも思います。</p> <p>「提案」 小1の壁という言葉が最近聞くようになりましたが、津別町で困っている家庭はあるのでしょうか?都市部に顕著な問題ならいいのですが、早朝や土日などの居場所についても必要に応じて作ってほしいです。</p> <p>【評価】 共働きにより児童館に預けざるをえない家庭が増えているが、児童館の老朽化が顕著であり、安心安全な居場所としてはハードの面で不安がある</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-1 子育て支援の充実「子育てしやすく子どもがすくすく育つ 子育て世代に選ばれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[1-1-4] 若い世代が子育てできる《住む・働く・生活》の環境づくりの推進	建設課 (住宅、道路、インフラ)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯の住宅取得支援のために、ふるさと定住促進奨励金を補助した。新築分 3件590万円、中古住宅を購入し、また改修した世帯への補助 中古6件160万円、改修3件150万円。 ・令和3年度に策定した「歩道修繕計画」に基づき、町道16号線の歩道補修を実施した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・住宅取得支援の補助を継続。 ・計画に基づく修繕工事について継続する。 	<p>【質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやり駐車場が冬季に凍結しやすく転倒する高齢者が多いとのことなので、何らかの対策や配慮が必要ではないか。 ・資材費高騰の影響を受け住宅改修に係る費用が増大している。新築住宅の取得を諦め中古住宅の改修を選択する方々が増えているため、改修に対する補助金の増額など検討しているでしょうか？ <p>【提案】</p> <p>所得が多い方の住む場所が問題なので、子育てが終わって大きな家の方で手放したい方とこれから子育てしたい方の売買がマッチングできるような仕組みがあればと思います。</p> <p>【提案】</p> <p>小清水町にできた複合施設を見て、使ったことはなかったけれどコインランドリーがあったら便利だなと思いました。通常のものはずでに町内にありますが、泥汚れや靴、ふとん専用の洗濯機があればこどもの部活動で汚れたものなど洗えるし子育てに役立つと思いました。</p>
		住民企画課 (買い物環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物環境の整備のため市街地に図書館、スーパーマーケット、バスターミナル、ハイヤー会社からなる複合施設「津別町大通地区コミュニティ施設(愛称 ウッドリーム)」を整備し、11月より全ての機能が供用開始された。ドラッグストアを含む「幸町地区コミュニティ施設」の整備については、設計が完了したところであり、R6年度に工事着工・11月完成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の活性化に資する取組みを行うため、サツドラとの連携協定を締結する。 	

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-1 子育て支援の充実「子育てしやすく子どもがすくすく育つ 子育て世代に選ばれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
		総務課 (公共施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・役場庁舎正面駐車場外構工事が完了した。駐車場の一部には屋根付きの「思いやり駐車場」を設置し、妊婦などが来庁しやすいよう配慮している。 また、敷地内には緑地帯とベンチを設置し、町民の憩いの場としての機能を持たせている。 緑地帯中央を通る歩行者通路は、すでに完成済みの大通棟と、建設予定の幸町棟と、役場庁舎との三施設を結ぶ誘導路として、各施設間のアクセスの利便性を高める役割が期待されている。 ・健康福祉センターが開設され、妊娠期から乳幼児期の相談会や教室、1歳半・3歳児健診を定期的実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸町棟が完成し三施設が揃ったところで、見えてくる課題があると考えている。 ・健診ホールが手狭であるが、中ホール等の活用など工夫して実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇プランターを設置し、より町民の憩いの場として親しまれるよう、彩りを添える。 ・引き続き、健康福祉センターを拠点として、子育てに関する事業を実施、充実していく。 	<p>【評価】 住民の買い物環境が充実していくことに大きな期待をしています。</p> <p>【評価】 若い世代が津別町の環境をどう感じているか？はあまり知ることがないですが、ニーズにあった環境作りを若者や若い家族にリサーチしながら推進してください。</p> <p>【評価】 住宅取得支援があることは、新築中古物件とわず購入に際して効果が大きいと思います。ただ、中古物件に関して、現所有者が退去時に「業者」による水落をしていないことで、購入者が水道管破裂の可能性がある状況での購入に難色を示されるケースが多々あります。また、破裂していた場合、改修費がかさみ、なかなか購入に結びつかないケースもあります。これは事前に「業者」による水落をしていけば防げることです。現在役場でも現所有者の退去時にお声がけいただいているが、現所有者の意識は低いです。今後の更なる空き家活用の観点から、購入前の中古住宅への施策ができればいいのでは？と感じています。昨年・今年と移住定住サポートデスクでは、町内企業との連携が増えています。就職決定者への住まい生活サポート。移住希望者への働く場所紹介→就職。更に連携・きめ細かなサポートをしていくことで、求職者とのミスマッチを軽減・長く津別に住んでくれる人が増えるのではと感じていますが、それには移住定住サポートデスク(ワークINつべつの拡充を含む)の人材増が必要なのではと感じています。</p>
		産業振興課 (働く場創出)	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の継続実施。R4から対象若年者の要件を一部緩和(正規雇用された日の属する月に町内に住所を有すこと者→正規雇用された日から1年以内において町内に住所を有する者) →R5新規実績:3事業者3名 ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の3年間の時限延長(R5～R7)。 ・UIJ新規就業支援事業の継続実施と町内企業への法人登録の推進。 →R5実績:1件 	<ul style="list-style-type: none"> ・量的に雇用機会はあまるものの、求職者とのミスマッチが生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UIJ新規就業支援事業の継続実施。 	

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-1 子育て支援の充実「子育てしやすく子どもがすくすく育つ 子育て世代に選ばれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[1-1-5] 保育サービスの充実	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、町内で就学前児童を受け入れる事業所は認定こども園1か所だが、多様な保育ニーズに対応できるよう、令和4年度においても延長保育、一時保育事業などの事業を継続実施した。(延長保育利用児童26名(延べ3,142名)、一時保育利用児童10名(延べ92名)) ・令和元年度10月から始まった「教育・保育の無償化」制度の制定に伴い、子育てのための施設等利用給付事業(一時預かり保育の無償化)を引き続き実施した。(令和5年度事業利用児童9名(述べ275名)) ・令和5年度末時点で、待機児童はいない。 ・人材確保を目的として、学生を対象に令和元年度に実施した「まるっと！ふくし体験(介護・保育)inつべつ」は、新型コロナが5類に移行したものの、関係事業所は依然として影響を受けており、開催が困難だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育サービスが必要な方に情報が知られていないことがある。 ・保育人材の確保に苦慮しており、今後保育ニーズに対応したサービス提供が困難となる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の人材確保における課題を行政と共有し、必要に応じて、人材確保や人材育成について対策を講じる。 ・出生相談時、子育て世帯の転入時など、子育てに関する制度などの周知を行い、必要な方に適切に情報が届くようにする。 	<p>【評価】 こども園など、サービスは充実していると思うので継続してください。</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-2 学校教育の推進「夢や希望を持って未来を切り拓く子どもを育む『津別ならではの』学校教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎健やかで豊かな人間性と多様性・国際性を育む教育が実践されています。</p> <p>◎子ども一人ひとりに応じた、未来を切り拓く力と将来に向けた選択肢を与えられる教育が実践されています。</p> <p>◎小中一貫教育化による“津別ならではの”体系的で特色ある授業が実践されています。</p> <p>◎先進的で新しい学びの教育を受けられるまちとなっています。</p> <p>◎地域全体で子どもを育てるまちとなり、地域の魅力を発信できる人材、まちづくりに参画する人材が育っています。</p> <p>◎地元食材を使った安全で美味しい学校給食が継続的に提供されています。</p>	<p>[1-2-1] 特色のある学校づくり「食育・木育」と「交流」のさらなる充実</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>【木育】「木のまちつべつ」で生まれ育った子どもたちに、津別の基幹産業である林業等への理解を深め、将来を担う人材になってもらうべく、小学校3・5年生、中学1年生の3学年で講師を招き、森で木に触れる体験や木工品製作等の授業を実施。</p>	<p>【木育】講師の助手として町内の方に協力を得ているが高齢化が進んでいるため、後任の選定について検討を行っている。</p>	<p>・学校運営協議会を活用し、授業の見える化及び担い手発掘を進める。</p>	<p>【評価】 1-2全体として、10年後の目指す姿で「先進的で新しい学びの教育を受けられるまち」とあります。子どもたちはクラスで幼稚園から中学校までクラス替えもなく人間関係が変わらないことは問題だと思いますし、部活や習い事も地方へ送り迎えなど親が援助しないと出来ない環境に津別町はありません。その中で親が子育てをしたいと思える取り組みがあればと思います。アソビバつべつなどはとても良い例だと思いますが、学校教育の中での改革も必要なのではないかと思えます。広島市が取り組んでいる教育改革の中に「イエナプラン」をもとにした異学年教育などもあり、公立の学習指導要領の中でも出来るのがたくさんあり、実際に広島で実践しているものなので、津別町規模の小さなまちの取り組みとしてはやりやすいのではないかと思います。津別町は様々な取り組みをしてすごいと思います。しかしながら、小さな町のフットワークを活かして大きく学校教育の仕組みを変えて、津別で育って良かったと思えるものを目指してほしいと思います。広島教育改革は参考になるのではと思います。</p> <p>【評価】 「食育」について、給食センターが新しくなると聞いています。地産地消等SDGsで美味しい給食が提供されることを望みます。</p> <p>【評価】 地域学に関わる事もありますが(津別高校)この取り組みがどのように効果があるのかは、知ることがないですけど、ふるさとを良く知る取り組みは大切だと思うので継続してください。</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-2 学校教育の推進「夢や希望を持って未来を切り拓く子どもを育む『津別ならではの』の学校教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[1-2-2] 地域学(ふるさと教育)の充実《全学齢一貫した取組の実践》	生涯学習課	・町教育委員会で作成した「社会科副読本」を活用し、小学校3～4年生の課程で、津別の歴史や産業を知る授業の実施。 ・津別峠やノンノの森等の津別の自然を体験する授業の実施。 ・町の産業を直接見て知るため、町内の工場等の見学授業の実施。		・学校運営協議会を活用し、授業の見える化及び担い手発掘を進める。	
	[1-2-3] コミュニティ・スクールの実践と体験型教育の充実	生涯学習課	・学校運営協議会がR3.3に発足し、コーディネーターが小・中学校の課外活動の窓口を担うことで、相手先との交渉をスムーズに進めることができている。また、課外授業の打合せにもコーディネーターが参加することで、外からの意見も取り入れながら授業を構築している。 ・体験型授業としては、ふるさと教育と通じるが、津別峠やノンノの森等の津別の自然を体験する授業の実施。		・学校から学校運営の課題を出してもらいながら、学校運営協議会委員と共に開かれた学校を目指していく。	
	[1-2-4] 先進的なICT、教育手法等の導入推進及び学校現場支援	生涯学習課	・児童生徒一人一台端末活用のため、学習ソフト・アプリを継続導入し、津別中学校には授業中のグループワークで使用する授業支援ソフトを試験的に導入するなど、学校現場支援を継続している。	・機器導入だけではなく、端末を活用した先進的な教育手法の現場支援方法。	・ICTによる教育手法の検討や情報共有を学校現場と共に行い、子どもたちが地域格差のない教育を受けられる環境を整えていく。	
	[1-2-5] 多様性を認め合うための体制整備(特別支援教育のさらなる充実と理解度向上)	生涯学習課	・特別支援教育を充実させるため、臨時教職員を1名、学習補助員を小学校7名、中学校3名の計10名配置した。	・特別な支援の必要な子どもに対して、適切な関わり方や必要な支援を行うために、特別支援教育担当教員と連携する学習補助員の人員確保	・継続的な学習補助員の人員確保。 ・今後は、教職員、学習補助員の能力向上につなげるため講師を招いた講演会・事例検討会の実施を目指していく。	
	[1-2-6] 図書に親しみ、読書好きを増やし、好奇心を刺激する教育の実践	生涯学習課	・安心して乳幼児と図書館を利用してもらえる授乳室、靴を脱いで上がる絵本ハウスや子ども遊び場などの設置により、親子で読書に親しみ、親子の信頼関係や絆を深めるサービスを提供できた。また調べものや勉強ができる学習室や読書カウンター等では、青少年を中心に誰もが利用しやすい場としての機能を担うことができた。 →ブックスタート事業(9名)、絵本ふれあい事業(89名)、読書チャレンジコンクール(小中学生70名)等。	・グループ学習などで図書館を利用する10代が増えたのは良かった。今後は貸出利用につながるような取り組みを行っていきたい。	・学校では児童・生徒一人一人にタブレット端末が貸与されるようになっているため、それらを活用した読書活動をすすめていきたい。	【評価・提案】 授乳室の話が出ているのでここに記述しますが、街中心部の施設になかったので授乳室が備わっていてよかったです。自分も旅行でふらっと立ち寄った施設に設備があると便利だったので、図書館が休館の時に使えないのが少し残念です。また、本をゆっくり選べるようにスーパーにあるようなこどもを乗せられるカートもあればさらに利用しやすいと思います。

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-3 生涯学習・スポーツの推進「いきいきと学び健康的で心豊かな人生を送るための生涯学習・スポーツの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎誰もが、生涯にわたりいきいきと学び、活動しながら、暮らしていける環境が整っています。</p> <p>◎年代に応じた多様なスポーツ機会が確保され、年間を通じたスポーツ、文化事業(夢を与える事業)が展開されています。</p> <p>◎町民ニーズに応じた多彩な生涯学習、社会教育メニューが充実しています。また、町外からの来訪者に対しても提供され、交流人口・関係人口の拡大、外貨獲得、移住促進に寄与しています。</p> <p>◎世代間交流、異年齢交流が活発に行われています。</p> <p>◎若者の拠点(たまり場、しゃべり場)が確保されています。</p>	<p>[1-3-1] 生涯スポーツと健康づくりの推進</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・教室を通して運動のきっかけづくりやスポーツの楽しさ(やる・みる・する)に触れる機会など誰もがスポーツ運動に親しむことができる多くの場を提供することができた。また、提供する教室と自ら日常で行う運動との組み合わせにより、運動の習慣化につなげる仕組みづくりができた。</p> <p>・「総合型クラブかるっちゃつべつ」事業と時期を調整し、切れ目のない運動の機会を継続して提供することができ、健康維持につながった。</p> <p>→オリンピック事業、ゴールドスポーツ教室全24回実施、健康づくり教室全24回、冬季スポーツイベント実施など</p>	<p>・20代、30代、40代の運動の機会や参加が少ない。</p>	<p>・参加への動機付けの工夫(ポイントなど付加価値をつけたい)</p> <p>・保健福祉課(健診)とのコラボ。</p>	<p>【評価】 1-3全体として生涯教育は魅力的な取り組みをして活気を作ってくれていると思います。ありがとうございます！</p> <p>【評価】 トレーニングルームのシーズン券を一度作って通っていたがとても良かった。しかし更新が面倒で続かなかったのでスムーズに更新できるようにしてほしいです。</p>
<p>◎世代間交流、異年齢交流が活発に行われています。</p> <p>◎若者の拠点(たまり場、しゃべり場)が確保されています。</p>	<p>[1-3-2] ニーズに応じた多様な社会教育事業の推進</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・デジタル教育にも着手し、新しい講座を展開することができた。講師から学び、参加者同士で学び合う機会を提供できた。</p> <p>・制限なく、町外も含めた鑑賞や学習の機会も提供することができた。また、システムを活用し、チケット購入が遠隔でできるようになり集客につなげることができた。(手数料はかかるが)</p> <p>→高齢者大学(学生47名、16講座、延べ参加者数489名)、社会教育講座86名、プログラミング教室19名、アソビバ！チミケップ湖カヌー体験6名、オリンピック事業30名、落語13名、アソビバ！スノーシューハイキング3名、芸術鑑賞事業300名など</p>	<p>・施設や機材が古く、時代にあった新しい取り組みがあまり展開できない。(新しいことへのチャレンジができない。発展できない。)</p>	<p>・施設整備(LED化、機材の更新、ネット環境の充実、デジタル機器の更新など)</p> <p>・システムやアプリなどの活用(申込やチケット、座席指定など)</p>	<p>【提案】 ノウハウを知る民間事業者の招聘や協働など、これまでとは違う視点から新しいチャレンジに繋げる必要があると思う。</p>
<p>◎使いやすく行きやすい図書館があり、誰もが勉学・情報収集に関心を持ち読書を楽しみ、本に親しむまちとなっています。</p> <p>◎家庭教育を通じた「親学び」、「子育て学び」による親子成長機会が確保されています。</p>	<p>[1-3-3] 図書館に親しみ、読書好きを増やし、好奇心を刺激する生涯教育の実践</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・4月～6月まで新館移転のため休館し、7月より図書館としてオープンした。前年度から継続している事業も合わせ、12事業行った。事業がきっかけとなり、図書館への利用促進となったため、公民館図書室時よりも多くの利用者に来館していただく結果となった。</p> <p>→ブックスタート事業(9名)、図書館まつり(400名)、映画上映会(全14回・158名)等。</p> <p>図書館だより毎月発行、小中学校巡回毎週2回</p>	<p>・図書館まつりやおはなし会等、ボランティアの協力が不可欠だが、高齢化やボランティアが固定化しているため、新たな人員の確保。</p>	<p>・複合施設でもあるため、図書館職員だけでなく、事業を行うのではなく、町民が主体となる事業も展開できるようにしていく。</p>	<p>【評価】 布絵本もあったり子ども向け図書も充実したので赤ちゃんの時から本に親しめるようになったと思います。作家名以外にも乗り物とか食べ物、動物など内容で分類したコーナーがあれば知らない作家の本とも出会えるようになるかなと思いました。</p> <p>【評価】 新しくなった図書館は本もたくさんあるし、以前より行く頻度が増えました。</p>
	<p>[1-3-4] 若者の拠点整備(たまり場、しゃべり場)</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・「津別町青年活動プロジェクトand」の活動は、メンバー17名で定例会8回、主催イベントの開催(出張サンタ、出張オニ、内部研修大人の社会科見学)、広報活動、近隣の青年団体との交流イベントも実施でき少しずつモチベーションを立て直してきている。活動の活発化が優先となり、拠点整備に向けての検討は進んでいない。</p>	<p>・メンバーのモチベーション維持や活動の機会を増やすことが優先な状態。たまり場・しゃべり場集うの場の創出の検討まで至らない。</p>	<p>・活動や集うことの楽しさややりがいを感じる事業の展開。</p> <p>・町内外における青年同士の交流強化</p>	

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-4 まちづくり教育の推進「まちづくり・地域づくりに参画する地域人材を育成する教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎まちづくり活動を活発に行う人(活動人口)の比率が高まり、まちづくりに自主的に楽しんで参加する人が増えています。横の連携が強化されています。</p> <p>◎異世代間の交流が活発に行われています。</p> <p>◎まちづくりを応援、協力、連携を促進する気運がより醸成されています。</p> <p>◎まちづくり活動を担うメンバーの新陳代謝が進んでいます。</p>	<p>[1-4-1] 「いいね」プロジェクト・「笑顔」プロジェクト・「応援し合う」プロジェクト</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・津別小学校では、学校教育目標の中で、めざす子どもとして「心身ともにたくましくおもいやりのある子ども」とし、自分のよさに気づくこと、他者のよさに気づくことを明るい挨拶や返事の指導を具体的に取り組んだ。</p> <p>・津別中学校では、学校教育目標の中で、生徒に身につけたいビジョンとして「他者を認め、思いやりを持って行動できる生徒」とし、自分の考えを自分の言葉で伝える取り組みを推進した。</p>		<p>・顔と顔を合わせたコミュニケーションも図りながら、お互いに思いあえる子どもたちになれるよう取り組みを進めていく。</p>	<p>【評価】 タウンニュースつべつについて 企業シリーズは、普段なかなか知ることができない企業風土や津別の力を知ることができる素晴らしい内容だったと思います。この特集をみることで、津別の素晴らしさを感じることができ、更に移住や就職希望者へのアプローチにも有効なので、ぜひ今後も色々な町内企業の歴史を知れたらと思います。</p> <p>【評価】 youtube活動は素晴らしいと思います、継続を応援しています。</p>
<p>◎胸を張って「津別を自慢」できる大人が増え、その言動を子どもが見聞して伝承されています。</p> <p>◎「ウエルカムつべつ」の土壤が醸成され、多くの人々が来町し、出会いが繰り返される町となっています(関係人口増加)。</p>	<p>[1-4-2] 多世代交流、異業種間交流の促進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型コワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスにおいて、多世代交流、異業種交流が図られた。 →地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数743名、多世代・異業種交流イベント31回(令和5年度)</p> <p>・リノベーションウィーク2023を4月に実施し、空き家という共通点で多世代、異業種の交流が生まれるきっかけを生み出した。 →参加者延べ約103名(令和5年度)</p>	<p>コロナ禍で普及したオンラインを用いたイベント実施においては、イベント参加者が気軽に参加できる一方、イベント参加者の温度感等を捉えるのが難しい。</p>	<p>・コロナの影響が減少してきたことを踏まえ対面での交流を復活させていくが、コロナ禍で普及したオンラインでの交流も引き続き実施していく。</p>	<p>【評価】 多世代交流、異業種交流でいうと取り組みが生活から遠いところにある気がします。実際に行われている多世代交流や異業種交流は各習い事であったり、趣味などであったりするので、その枠組を見えるかして各団体に参加や体験しやすい促進事業はどうかと思います。知り合いがいなくてどうやって参加したらよいかかわからないところもあると思います。野球やゴルフ、ダンス、パークゴルフ、ヨガなど色々あると思います。</p> <p>【評価】 交流を活発にして、より一層津別町が活気ができるようアイデアを深め継続してください。</p> <p>【評価】 ゲストハウスnanmo-nanmoは引き続き、町内と町外の方との交流の場として、多くの方に利用していただいています。いつもありがとうございます！課題の1つとして、町内の若者へのアプローチが弱いと感じています。町外(海外含む)から、まちづくりや面白い活動をしている若者が多く来ていますが、町内の若者との交流ができておらずもったいないと感じています。イベントも含め、町内の10・20代の若者ともっと一緒に活動・交流していきたいと感じています。</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-4 まちづくり教育の推進「まちづくり・地域づくりに参画する地域人材を育成する教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[1-4-3] 交 流・発信によ る人材育成	住民企 画課	・広報番組「タウンニュースつべつ」を通じて、様々なまちづくりの活動にスポットライトを当てることで、まちづくり活動参画へのモチベーションを上げ、地域づくりへの参画人材を拡大を図った。 →計12回放送、YouTube視聴回数19,480回(令和5年度) →計12回放送、YouTube視聴回数16,484回(令和4年度) →住民満足度調査「行政の情報発信等」の「満足」、「おおむね満足」の割合71.5%(令和5年度) ・人づくり・まちづくり活動支援事業を通じた自主的なまちづくり活動の推進を行った。 →事業採択数8件、採択団体所属人数 計145名	・特にまちづくりへ参画する若者の必要性が増しているため、連携を図る必要がある。	・まちづくりに参画し頑張っている人材や団体の成果を媒体を使って、町民に広く発信することで人材の拡大を図る。	【評価】 タウンニュースつべつを始めとする道東テレビとの協働事業は町外からも評価されているので、今後も継続したほうが良い。 【評価】 タウンニュースつべつには映像ならではの力を感じます。津別の魅力を発信し続けることで、ドラマや映画のロケ地に選ばれたら面白いなと思いました。
	[1-4-4] 住民 提案型のまち づくり方策・条 例等の検討	住民企 画課	・まちづくり基本条例を制定するため、本条例の策定委員会設置条例を策定し、委員8名を決定した。また、まちづくり基本条例についての知識を身に着けるための学習会を実施した。	・条例内容の議論をするためにはある程度の知識を委員および職員は議論前に持っておかなければならないが時間が掛かってしまう。	・委員とともに津別町らしい条例となるよう将来の津別町を見据えた議論を行っていく。	
	[1-4-5] 「津 別町まちおこ し大学ver.2.0」 の実施	住民企 画課	・北海道大学公共政策大学院公認課外活動団体HALCCと津別高校生との高大連携事業として、「調べる力」「考える力」「伝える力」を身に着けることを目標として、理想の津別を考えた高校生総合戦略を作成。大学生を通じてまちづくり人材の育成を図った。 →高校生による提案18件(令和5年度)	・高校生、大学生ともに高大連携事業に充てられる時間・期間に限りがあること、また高校・HALCC・役場の人員の入れ替わりがあることから、毎年度同様の事業内容に落ち着いてしまう。	・限られた時間の中で効果的な事業となるよう、3者間での綿密な協議を行うことや町内事業所や町民との交流の場を設けていきたい。	【評価】 HALCCの活動により地元高校生が津別町の産業や町内事業者を深く知ることで、地域の担い手として定着できると良い。

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～
 施策 2-1 保健・医療の充実「安心した生活を支える地域医療の充実と健康で暮らせる環境づくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encourage, Support)
<p>◎津別病院が存続し地域医療が維持されており、誰もが必要な時に必要な医療を受けることができます。</p> <p>◎「地域包括ケアシステム」の向上・推進により、医療・福祉・介護・行政(教育)に関わる福祉サービスが一体的に受けられるようになっていきます。</p> <p>◎“病気になっても”、“介護が必要になっても”、住み慣れた地域で安心してその人らしく暮らし、最期を迎えたいという希望が叶えられるまちとなっています。</p> <p>◎健康寿命延伸に向けて町民一人ひとりが自ら健康づくりに取り組んでいます。</p>	<p>[2-1-1] 津別病院を中心とする地域医療体制の維持</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・コロナウィルスが5類になったところではあるが、津別町のワクチン接種に多大な協力をいただき、町内に医療機関があることの重要性を再認識している。</p> <p>・地域医療の中核拠点として、町民にとって不可欠な病院として、地域医療体制の維持・改築に向けた協議を進めるため会社・病院の意思・希望・方針を示していただくため令和4年5月に要望書を提出し、令和6年3月に担当間で中間協議を実施した。</p> <p>・地域医療体制維持のため、町内唯一の医療機関である津別病院に継続的に助成を行った(2億4千万円)。</p>	<p>・建物、設備の老朽化の進行が著しく、建替えへ向けた、将来的な医療体制の構想づくりが急がれる中、総合計画に盛り込まれた地域医療の在り方を基に、会社・病院の希望・方針を示していただくため町から要望書を提出したが、具体的な回答がいただけていない状況であった。現時点では令和6年3月に担当間の協議を実施して要望を再確認し、改めて回答を待っている状況にある。</p> <p>・企業立病院であるため、将来的な医療機関としての経営・運営方針も会社の経営に大きく左右される。</p>	<p>・令和4年末に社長と町長で面談し、双方出席の元、できるだけ早期の協議を行うことで合意したので、会社・病院の準備が整い次第、協議を開始する予定。</p>	<p>【質問】 具体的に丸玉木材に対してどのような要望をしているのでしょうか？</p> <p>【提案】 令和4年末に合意があつて、その後まだ協議には至っていないのでしょうか？住み続けるには病院が不可欠なので維持してほしいです。また、子育て世代が住む場所を選ぶ際には小児科の有無も重要ポイントなので、無理は承知の上ですが隔日でもいいので小児科の開設も要望できないでしょうか。</p> <p>【評価】 2-1総括 様々な事業に取り組んでありがたいと思います！津別病院は課題だと思います。あつてほしいと思いますが、もし診療所という形になったとしても、遠隔診療や医療を受けられる体制もあつても良いかもしれませんし、通うのであれば補助なども視野に入れて地域医療に何が必要か考えていければと思います。ちょっとした風邪はよいですが、やはり日赤や大きな病院に行ってしまうのも現状だと思います。</p> <p>【評価】 病院は死活問題ですし、全ての世代のニーズに合わせることはできないと思いますが 維持継続を願います。</p> <p>【評価】 地域医療の重要性を改めて感じています。誰もが利用できる医療機関があること。その為にできることは何なのか？住民としてお手伝いできることが何かあるのか？と感じています。</p>
	<p>[2-1-2] 地域包括ケアシステムのさらなる向上・推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることを目指し、医療・介護の関係者や地域住民が連携しながら対応を協議する会議や研修会等を行った。(令和5年度実績)</p> <p>津別町在宅医療・介護連携推進会議:2回、津別町 医療・介護・福祉専門職のための学習会:1回、介護サービス事業所連絡会議:12回、在宅医療・介護連携推進会議制作『保存版 つべつ医療と介護 ガイドブック』の配布やPR、「多機関で個別に高齢者を支え、ケアマネジメントの質向上を目的とした地域ケア会議:2回/地域ケア地域課題検討会議:1回/自立支援型地域ケア会議4回、介護予防・生活生活支援体制整備事業協議会:1回</p>	<p>・支え手となる専門職の確保と地域住民の高齢化によるマンパワー不足の懸念される。</p> <p>・高齢者本人とそれを支える支援家族にも多くの課題がある複合ケースが増えてきている。</p>	<p>・若い世代も役割をもって支えあい活動に参加できるよう、地域でのしくみについて検討、継続する。例)LINEアプリを活用したSOSネットワークの登録推進、認知症高齢者を支える体制づくり『チームオレンジの発足』、幅広い分野でボランティア登録 など</p>	<p>【提案】 専門職確保は必須です。年数が経過するほど確保は厳しいと思います。医療職・専門職のタウンミーティング等を開催して、連携を強化してみてもどうでしょうか？</p>

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～

施策 2-1 保健・医療の充実「安心した生活を支える地域医療の充実と健康で暮らせる環境づくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encourage, Support)
	[2-1-3] 介護 予防、重症化 予防、リハビリ 等の予防に向 けた取組のさ らなる重点化	保健 福祉 課	<p>・介護保険制度による各種介護予防事業を計画し、社協や町内団体と連携しながら実施した。(令和5年度実績)</p> <p>→健康教育:5回/参加65人、いきいき百歳体操開催支援:6団体、ふれあいサロン:13団体(運動サロン含む)、高齢者運動教室(旧転倒予防教室):24回/参加延242人、通所型介護予防(ミズナラ倶楽部):141回/参加延650人</p> <p>※一部事業は津別社協、かるっちゃつべつへ委託し実施。</p> <p>・リハビリテーション専門職の派遣ならびに相談指導(令和5年度実績)</p> <p>津別病院のリハビリ専門職が同行し、家庭訪問並びに介護予防を目的に集う場所で個人相談や集団指導を行った。また、住宅改修を予定している高齢者宅で、身体状況に合わせた助言等を行った</p> <p>その際は対象者に同伴するスタッフもリハビリ専門職の指導を聴く機会となり、介護の質向上に繋がる結果となった。</p> <p>→事業実施:年間38回</p> <p>→家庭訪問:10回、家庭訪問以外の個人相談等:16回、ミズナラ倶楽部3回、百歳体操等団体6回、ふれあいサロン等3回</p>	<p>・数年間に渡る感染症対応(外出を控えたり活動の自粛)でフレイル(心身虚弱)状態が進み、各団体とも参加者減になっている。</p> <p>・コロナ禍明けで活動再開後、介護予防の気運が高まっており、積極的な後方支援が必要となっている。</p>	<p>・リハビリテーション専門職とも協力しながら、高齢者自身が主体的に取り組めるような動機付けを継続する。</p> <p>・地域が主体となっていく、いきいき百歳体操やふれあいサロンなどの介護予防事業について、新規開催を支援する。</p> <p>・高齢者自身のモチベーションにも繋がるよう、介護予防に資する事業評価を継続する。</p>	<p>【評価】</p> <p>先日、幸町のサロンスタートにあたり、ナンモで自治会のみなさんが会議をおこないました。みなさんで話し合っている様子をみていましたが、自治の力を改めて感じました。</p> <p>サロンは本当にすごい活動だと思います。最近はなかなか参加できない状況ですが、私も時間がある時には引き続きあいいサロンに参加させていただきたいです。</p>
	[2-1-4] 自発 的な健康づく り・健康維持 に向けた取組 の推進	保健 福祉 課	<p>・令和5年度は第3次健康づくり計画および第3期津別町国保データヘルス計画を策定。策定にあたり、町民の健康意識調査、健診結果、受診状況(国保)等のデータ分析を実施したところ、津別町では生活習慣病について「高血圧の方が多い。その背景には軽度の肥満が多く、運動不足の傾向がある」という課題があった。そこで令和6年度からは「肥満」、「高血圧」をキーワードにした保健事業を展開していくことが決定した。</p> <p>・試行的取り組みとして町民へ薄味に関する啓蒙活動として、「適塩みそ汁の試飲会」を実施(年間7回、参加428名)</p> <p>・特定健診後に自分の生活を振り返り、生活習慣病予防につながることを目的に個別保健指導を実施(年間6日間、参加92名)</p> <p>・糖尿病発症予防を目的に健康講座の実施(年間2日間、参加34名)</p> <p>・がんの早期発見を目的に、各種がん検診を実施(胃254名、肺393名、大腸409名、前立腺130名、乳130名、子宮頸139名)</p> <p>・生活習慣病早期を目的に、津別町国保被保険者を対象に特定健診、後期高齢者健診を実施(合計361名)</p>	<p>・令和5年度もがん検診の受診率は増加傾向にあるが、特定健診受診率は低い状態が続いている。</p> <p>また、特定健診を受診しても毎年連続受診する方が少ない。</p>	<p>・特定健診受診時に次年度予約を同時の行う体制づくり</p> <p>・生活習慣病で通院中の方も健診を受診しやすい体制づくり</p> <p>・肥満改善のための集団保健指導</p> <p>・塩分に関心を高めるための啓蒙活動</p> <p>・正しい血圧測定方法の啓蒙活動</p>	

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～
 施策 2-2 福祉の充実「つながり、共に支え合い、誰もが生きがいをもちながら暮らせる『地域共生社会』のまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encouage, Support)
<p>◎年代、性別、障がいの有無などに関わりなく、地域全体で支え合い、共に生きる「地域共生社会」が構築され、地域コミュニティの力を活かした、地域での見守り・支え合い活動が活発に行われています。</p> <p>◎行政・地域・関係機関が一体となった包括的な支援体制の構築が図られ、充実した支援により、より一層高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる町となっています。</p> <p>◎高齢者が培ってきたことを活かし、より一層生きがいと楽しみを持って暮らせる町となっています。</p> <p>◎障がい者の就労の場が確保され、社会の一員として生きがいをもち働くことのできる町となっています。</p>	<p>[2-2-1] 地域の支え合いによる地域福祉の推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・認知症の方やその家族を地域の中で見守り、支えていく体制づくりの強化を図ることを目的に事業実施した。令和5年度は、ステップアップ講座修了者を参集し、令和7年度開設予定の「チームオレンジ」の立ち上げ会議を行った。また、修了者の方には認知症事業にも参加してもらい、厚みのある地域支援に取り組むことができた。(令和5年度実績) →チームオレンジ立ち上げ会議:1回/参加12名 →認知症地域支援推進員による活動(津別社協委託):「認知症の人にやさしいお店」登録:14事業所、認知症サポーター養成講座:4回/参加68人、認知症サポーターステップアップ講座:1回/参加12人、認知症カフェの開催:4回/参加延35人、家族茶話会:3回/参加延7人、認知症高齢者見守り事業:13回/訪問延26人 ・認知症高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するために、医療、介護等の連携強化による地域の支援体制を構築する活動を行った。(令和5年度実績) →認知症初期集中支援チームによる支援:4人(内新規2人) ・メール配信登録者の伸び悩みに対し、「LINE」アプリを活用した登録方法を3年度から開始。(令和5年度実績) →メール配信システム「ささえねっと@つべつ」登録者:メール412人、LINE 537人/配信0件、徘徊高齢者搜索模擬訓練:1回/参加12人</p>	<p>・認知症カフェや茶話会等、参加者は減少していないが、新規参加者の確保が難しい状況。 ・認知症高齢者とその家族を支えるために、どのような場が求められるのか常にリサーチが必要。</p>	<p>・認知症高齢者とその家族を地域で支える体制や新たな事業展開について、「チームオレンジ」メンバーと共に検討していく。 ・広報や社協だより、包括機関紙を活用しながら認知症高齢者、支える家族に向けて事業をPRしていく。 ・より多くの方の協力を得て徘徊高齢者を安全に発見するため、配信システムのPRを強化する。具体的には、高齢者の集まりに職員が積極的に出向き、システムのPRやアプリ登録のお手伝いを行う。</p>	
<p>◎認知症や障がい、発達障がい、特別支援教育に対する町民一人ひとりの理解度が向上し、相互に尊重し合う、福祉に優しい町となっています。</p> <p>◎多様な主体が参加する地域福祉・ボランティアが活発に行われ、福祉事業の先進地・中心地となっています。</p> <p>◎誰もが居場所と役割のある全世代活躍のまちづくりを目指しています。</p>	<p>[2-2-2] 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくり</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者が培ってきたことを活かし、生きがいと楽しみを持って社会参加できるよう、規定に則りボランティア活動を行った際にポイントを付与する有償ボランティア事業を実施した。(令和5年度実績) →介護予防いきいきポイント事業 事前研修兼フォローアップ研修:1回/参加27人(内新規登録者8人)/累計118人(65歳以上)、活動内容:7か所、延94人 →生活サポートセンター事業 フォローアップ研修:1回/参加17人/累計88人、活動利用者:延31人、サポーター延23人 ・高齢者の様々な権利を守ることを目的とし、虐待防止や成年後見・市民後見推進に関する取り組みを行った。(令和5年度実績) →虐待防止研修会:2回、市民後見人養成研修:全11回(33時間30分)/参加3人、市民後見人フォローアップ研修:1回/21人 ※一部事業は津別社協へ委託し実施。</p>	<p>・コロナ禍明けで受け入れ施設が増えたことで、活動回数が増加している。今後はインセンティブ付与に対する内容や方法の検討が必要。 ・高齢者自らも、主体的に社会参加できるような動機付けやモチベーションの維持で、様々な方法での体制づくりが必要。</p>	<p>・身近な地域で、社会参加や見守りが行える場の開催を支援する。例)ふれあいサロン、いきいき百歳体操、各種のボランティア事業等 ・高齢者本人も役割ややりがいをもち社会活動に参加できるように、ポイント付与などの仕組みについて見直しや検討を行う。</p>	

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～
 施策 2-2 福祉の充実「つながり、共に支え合い、誰もが生きがいを持って暮らせる『地域共生社会』のまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encourage, Support)
<p>◎社会的孤立者といわれている生活困窮者やひきこもりの状態にある本人・家族を適切に支援する取組を推進します。</p>	<p>[2-2-3] 予防を重視した在宅福祉・介護サービスの充実</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者の実態把握を目的とし、介護予防事業の参加状況や関係者からの情報提供、家族からの相談、職員が家庭を訪問して生活状況を把握した。 【個別訪問】年度内に80歳、85歳、90歳、92歳以上の年令に到達する者を個別に訪問し、生活状況を把握した。(令和5年度実績) →80歳:38人、85歳:35人、90歳:9人、92歳以上4人、介護認定を受けているがサービス未利用者2人、前年度対象又は対象年齢外:10人 【安否確認訪問】生活支援員(ホームヘルパー)が定期的に訪問することにより、登録者の生活・健康面の変化を把握し早期に生活支援方法を検討した。(令和5年度実績)→12回/訪問延67人</p>	<p>・これまで介護状態になってから対応していた高齢者について、「事前対応型」の支援が行えるようになったが、発見後のフォローについてマンパワー不足である。 ・心配な高齢者を発見しても、ご本人の意思や住環境などから、改善が難しいケースが多い。</p>	<p>・介護予防のため生活状況の改善が必要な高齢者に、適時必要な支援が行えるよう、地域住民とも連携できる場の継続。例)住民主体で運営する集まりを拡大や、新たな介護予防事業のメニュー化、身近な福祉相談所「ぽっと」の開催支援等</p>	
	<p>[2-2-4] 障がいのある人が自立しやすい環境づくりの推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・令和5年2月から町内に自立生活援助事業所が開設した。障がいのある人が一人暮らしをするにあたり、定期的な巡回などを行うサービスのため、地域で自立した生活を送りやすい環境が整ってきた。実際に令和5年度からサービスの利用する者も出てきた。 →新規自立生活援助者 1人 ・関係機関と連携し、町内に在住している障がい者の実情アセスメントを実施することにより、適切なサービスに繋げることができた。 →就労系サービス:新規利用者 4人、総利用人数 19人(町外事業所含む) 共同生活援助(グループホーム):新規利用者 2人、総利用人数 24人(町外事業所含む) 児童通所サービス:新規利用者 3人、総利用人数 20人</p>	<p>・就労系サービス、共同生活援助(グループホーム)について事業所が少なく、女性用グループホームについては町内事業所がない状況である。 ・農福連携の話し合いがなかなか進まない。繁忙期みの雇用では安定したサービス供給とは言えないので、通年雇用についての検討が必要である。 ・当事者意見を聴取する機会が少ない。</p>	<p>サービスを利用する障がい者からの聞き取りや当事者団体との意見交換などを行いながら、必要な地域資源の創出や農福連携について引き続き検討する。当町だけで完結できないものは、他市町と連携しながらニーズに対応する。</p>	<p>【評価】事業所が新たに開設されたのはとても良いことだと思います。障がい者も町外の施設に転居することなく町内に住み生活し続けられるように取り組みを続けてほしいです。</p>

3 成果基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～
 施策 3-1 交通環境の整備「快適・安心で潤いのある生活を支え人とまちの魅力をつなぐ交通環境の確保」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encouage, Support)
<p>◎地域交通(公共交通)として移動ニーズに対応した移動サービスが確保されており、町民の交通環境が整備されています。</p> <p>◎町民の潜在力も含めた地域力が発揮され、地域に最適な利便性の高い生活交通等、地域交通の維持・確保が進められています。</p>	<p>[3-1-1] 津別町の地域特性に応じた面的な地域交通ネットワークの再構築</p>	<p>建設課</p>	<p>○津別町地域公共交通計画に基づき、タクシー利用助成券交付事業及びコミュニティバスの運行を実施した。</p> <p>タクシー利用助成券発行者数 404人/年 タクシー利用助成券発行枚数 18,556枚/年 タクシー利用助成券使用枚数 9,273枚/年</p> <p>コミュニティバス利用者数 1,350人/年</p> <p>○津別町地域公共交通計画改定</p>	<p>近い将来に直面する運転手担い手不足(運転手の確保)</p>	<p>利用者ニーズに即したまちバスの運行時間等の見直し及び町内外交通の持続確保</p>	<p>【提案】 道内の自治体で自動運転バス?の実証実験をやっているニュースを見ましたが、運転手不足になるのは時間の問題なので自動運転の乗合バスの導入も検討してみてもは。</p>
<p>◎新たな技術の進歩を踏まえ、地域の実態に即した新たなモビリティサービスの導入検討が進められています。</p>	<p>[3-1-2] 地域交通(バス)の利便性向上と利用促進に向けた取組の推進</p>	<p>建設課</p>	<p>○スクールバス予約システム稼働(7路線)</p>	<p>近い将来に直面する運転手担い手不足(運転手の確保)</p>	<p>利用者ニーズに即したまちバスの運行時間等の見直し及び町内外交通の持続確保</p>	<p>【質問】 札幌でさえ運転手不足で路線の減便や廃止がなされていますが、北見バスの状況はどうでしょうか。普段バスを利用していないので利用状況がわからず内部評価からも読み取れません。バスセンターが新しくなりましたが何かよい影響はありましたか?</p> <p>【質問】 コミュニティバス利用者の評価や満足度が知りたいです。利用者は増加していますか。</p>

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～
 施策 3-2 住環境の整備「自然と調和し、安心で快適な住環境が整備された住みやすいまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> 若者や子育て世帯の定住促進に向けた多様な住環境が確保されています。 高齢者、障がいのある人にとって安心して住みやすい住環境が確保されています。 誰もが、ライフスタイルやライフステージに合わせて住み替えができる住環境が整備されています。 空き家バンク制度が町内外に広く浸透し、空家・空き店舗が定住促進・町の活性化に寄与しています。 町内在勤者や若年層の移住・定住が進み、日中と夜間、平日と週末の人口格差が少なくなっています。 	[3-2-1] 定住促進に向けた住環境整備の推進	建設課	・10年以上の定住確約を条件に、ふるさと定住促進奨励金を補助。新築分3件590万円、中古購入分6件160万円、改修分26件912万円。		さらに、ふるさと定住促進奨励金制度の内容を充実し継続。	【質問】 町営住宅のバリアフリー化は検討していたりしますか？世帯向けの住宅が足りない状況を以前聞きましたが、現在はどうなっていますか？ニーズ調査はしていますか？ 【提案】 空き家の状態に対して、修繕する費用に対して補助金が少なく、若者には住むにはハードルが高いとの声をよく聞きます。相対的に町外を選択する傾向が強いと感じます。 【評価】 最近特に空き家バンクに「無料でもいいからもらってほしい」「なんとか手放したい」という所有者からの問い合わせが多いです。現地で物件確認をすると、屋根雨漏りの可能性・水道管破損の可能性、クロス汚れなど、かなり大掛かりな改修を必要としそうな物件になっています。いくら安くても、このような物件を現状のまま購入を希望する人は少ないです。実際、内覧実施件数はかわらないと思いますが、そこから空き家購入に至る人は減っています。本当に空き家の活用と住環境の整備を推進するのであれば、この部分の施策を考える必要があるのではと特に感じています。
		保健福祉課	・障がい者については日常生活用具等給付事業があり、障がいの種別により手すりの設置や段差の解消、扉の変更などの住宅改修を行うことができる。(令和5年度実績)⇒1人	町内における住宅改修は、介護保険制度に該当する高齢者がほとんどであるため、障がいのある方の住宅改修実績は少ない状況である。	障がい者から住宅環境等の相談があった場合は、住宅改修事業に該当する場合もあるため丁寧な説明・対応を心掛ける。	

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～
 施策 3-2 住環境の整備「自然と調和し、安心で快適な住環境が整備された住みやすいまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[3-2-2] 空家対策事業のさらなる推進と制度活用・浸透に向けた情報発信の強化	建設課	<ul style="list-style-type: none"> ・空家等の除却を進めるため、空家等の撤去に対し1件50万円を限度に補助。13件646.2万円。 ・空家等の利活用を進めるため、空家の賃貸を目的として改修する方に1件50万円を限度に補助。R5は申請なし。 ・空家予備軍の件数を調査した。 		空家等撤去促進事業補助制度、空家活用促進補助制度を継続。空家の適正管理の意識醸成を図るため、広報等での周知。空家予備軍の状況調査と空家を放置させないように働きかけ	<p>【提案】 物件所有者には、物件を購入してもらいやすくするために気をつけなければいけないこと、やったほうが良いことの周知を。→タウンニュースつべつなどの動画や空き家相談会などでの周知がよいかなと思います。物件購入希望者には、津別町に住むことのハードルの周知を。(安価な物件が増えたことで、津別という町がどこにあるかさえも知らずに、とりあえず家を購入して住みたいという方からの問い合わせが増えていきます。現在は一度は現地に足を運んでもらうことにしています)今後更に、空き家の活用と住環境の整備を念頭に、それぞれの課題に即した情報発信を実施していければと思います。</p> <p>【評価】 住宅を探されている若い世代は一定数存在するが、空家の状態が悪いため改修困難または工事費がかかり過ぎる物件が多い。また、固定資産税の増を懸念し解体にふみきれない所有者が多く、土地として利用価値があっても埋もれてしまっている実情である。</p> <p>【評価】 空き家の状態に対して、修繕する費用に対して補助金が少なく、若者には住むにはハードルが高いとの声をよく聞きます。相対的に町外を選択する傾向が強いと感じます</p>
		住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数:空家33件(うち新規24件)、土地38件(うち新規7件) →利用希望者延べ登録数:131名(うち新規44件) →マッチング件数:23件 ・町内広報誌への周知チラシ折込や、町外者に向けて固定資産税納付書への周知チラシ折込、イベント等を利用した制度及びサポートデスクの周知等を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家について、登録が頭打ちになってきていることから、更なる物件の掘り起こしを行う必要がある。 ・長期間成約に至っていない物件もあることから、何らかの取り組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役場が提供可能な空家情報についてはサポートデスクと情報共有していくほか、自治会や建築業者との繋がりをより深めることで、新たな物件の掘り起こし等において連携していきたい。 ・オンラインツールを用いた町内外の物件登録希望者・利用登録希望者に対するアプローチを積極的に行っていく。 	

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～
 施策 3-2 住環境の整備「自然と調和し、安心で快適な住環境が整備された住みやすいまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[3-2-3] 次期住宅整備計画策定に向けた検証と町民ニーズの把握	建設課	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き町営住宅入居希望者の入居理由の聞き取り 入居案内をHPIに掲載している。 		現在の住宅の現状を整理する。(今後の修繕見込、使用可能年数など)	<p>【評価】</p> <p>ここは本当に重要な項目だと思います。昨年も議題になったかと思いますが、いくら町内企業への就職が決まり、町内の定住を企業側が推進してもすぐ住める住まいがなければ町外という選択肢になってしまいます。移住希望者だけでなく、町内の新婚家庭、転勤家庭も、最初に住まいがなければ、町外に住んでしまいます。あとから津別に住みかえることはないと思います。最初が肝心です。所得があるが、まだ一戸建て住宅を建てるには？という段階の人たちが住める場所(賃貸物件)をつくることはとても重要だと思います。民間の一戸建て賃貸の推進をするのであれば、更に改修の助成が必要かと思っています。現在の民間一戸建て賃貸物件は、中古物件のDIY型賃貸が多く、ほぼ改修なしの状況で、すぐ住める物件は少ないです。また誰もが住みたいという物件ではありません。</p>

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-3 生活基盤の整備「ずっと暮らし続けたいと思える安全・安心な生活環境の整備」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎町内で日常の買い物ができる環境が整っています。</p> <p>◎町民が地元の美味しい野菜や特産品を気軽に購入することができるようになっていきます。</p> <p>◎空家・空き店舗が減少し、すっきりとした街並みと景観が保たれたまちとなっています。</p> <p>◎誰もが手軽に様々な情報を得ることが出来る情報通信網が充実しています。</p> <p>◎災害時などいかなる場合においても、常に安全で安定した水の供給と生活排水の処理ができる環境が整備・保全されています。</p> <p>◎冬期間でも誰もが安心して歩いて暮らせる中心市街地(まちなか)が実現しています。</p>	<p>[3-3-1] 買い物環境の充実</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・起業等振興促進条例に基づき、2件の販売施設の改修及び機械等設備の更新を支援。町民の買い物環境の質の向上の一助になった。</p> <p>・R5もお買い物割引券を2度発行し、町内での購買促進の一助になった。</p> <p>・町内の新たな特産品・お土産品として、道の駅20周年を記念し作成された(株)相生振興公社の「クマヤキクッキー」と「クマヤキグミ」が発売された。</p>	<p>・既存店主の高齢化。</p>	<p>・起業の促進及び企業活動の支援を目的に起業等振興促進条例の期限を3年間延長。</p>	<p>【提案】 乗合タクシーも出来たらよいと思います。</p> <p>【質問】 既存店が継続していくための支援や施策はどのような状況でしょうか？</p>
	<p>[3-3-2] 空家・空き店舗の利活用の推進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>【再掲(1-1)】</p> <p>・買い物環境の整備のため市街地に図書館、スーパーマーケット、バスターミナル、ハイヤー会社からなる複合施設「津別町大通地区コミュニティ施設(愛称 ウッドリウム)」を整備し、11月より全ての機能が供用開始された。ドラックストアを含む「幸町地区コミュニティ施設」の整備については、設計が完了したところであり、R6年度に工事着工・11月完成を目指す。</p> <p>・空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空家等延べ登録数:空家33件(うち新規24件)、土地38件(うち新規7件) →利用希望者延べ登録数:131名(うち新規44件) →マッチング件数:23件</p>	<p>・人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。</p> <p>・町内企業への就職が決まっているもしくは転勤で町内に引っ越す方で、すぐに住める賃貸物件を希望している方に対する物件や家族連れの方に対する賃貸物件がほとんどない。</p>	<p>・町の活性化に資する取り組みを行うため、サツドラとの連携協定を締結する。</p> <p>・すぐに住める家族連れ向けの賃貸物件(戸建て)の掘り起こしや、移住が決まっている・決めている方を対象とした移住住宅の整備を検討していく。 ・リノベーションのメリット等を実感してもらえるようなイベントを実施する。</p>	<p>【質問】 津別町が移住定住を推進するうえで「お試し住宅」は必要な取り組みだと思うが、新たに整備する予定はあるのでしょうか？</p> <p>【評価】 空き店舗に魅力的な新しいお店が入ってすごく嬉しいです。積極的に推進・誘致してほしいです。</p> <p>【評価】 民間住宅(売買・賃貸)・公営住宅とわず、「つべつの住まい」について考えていくことが重要なんだと思います。</p> <p>【評価】 問題が継続的に続いているように感じます。厳しいと思いますが応援しています。</p>

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～
 施策 3-3 生活基盤の整備「ずっと暮らし続けたいと思える安全・安心な生活環境の整備」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[3-3-3] 町内施設における公衆無線(Wi-Fi)の充実	総務課	ウッドリームへの公衆WiFiの設置を行った。	近年のネットワークの利用需要の高まりから、より広帯域化、高セキュリティ化が求められている。また、ネットワークトラブルへの迅速な対応が求められているが、職員のスキルでは対応が困難である。	公衆WiFi設備の更新と、専門業者への管理のアウトソーシング等について検討を行う。	【評価】 無料Wi-Fiがあることで、町内色々なところ(しかもとても素敵な建物や環境が良いところが多い)で仕事ができるようになっています。津別の良いところですよ。 民間の無料wi-fiスポットも含め、もっと外からくる人にアピールしてもいいのではと思います。 【評価】 公衆無線(Wi-Fi)が、遅い・弱いとの声をききます
	[3-3-4] 安心で快適な社会基盤を備えたまちづくりの推進	建設課	【住宅】空家撤去に対し補助。13件646.2万円。 【水道係】主に市街地地区に配水している高台低区配水池の更新を行った。この更新の際に、緊急遮断弁を設けたことにより、大地震時等に配水池内の水を放出させず、給水所等に水を活用することが出来るようになった。 【道路河川係】各種修繕計画に基づき、橋梁2橋・歩道1路線の修繕を実施。		【水道係】上里浄水場に紫外線滅菌装置を設置する。これにより原水を高度処理し、より安全・安心な水道となる。 【道路河川係】町道整備計画に基づき町内の舗装未実施路線の整備を取り進める。	【質問】 危険な空き家の撤去は進んでいますか？
	[3-3-5] 防災体制の整備	総務課	・出前講座「高台町ほのぼのサロン(8名)」「共和第4自治会防災教室(20名)」「津別高校1日防災学校(30名)」「豊永第3自治会防災体験研修会(29名)」と「津別小学校4年生出前授業(30名)」を実施。 ・災害備蓄非常食の補充。	地域住民や関係機関との連携や情報共有	・職員等の訓練や研修の拡充 ・住民参加の実践的な訓練実施	【質問】 置戸町で山林火災がありました。津別町で起こった際の対応は万全ですか？

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～
 施策 3-4 環境保全・エネルギー政策「『エコタウンつべつ』実現に向けた先進的なまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
◎再生可能エネルギー(太陽光・バイオマス)の比率が高まり、石油燃料依存体制からの脱却を実現し、持続可能な循環型社会・低炭素社会に近づいています。 ◎木質バイオマスによる暖房システムが町全体に整備され、各施設での木質バイオマスボイラーの普及率が高まっています。 ◎「エネルギーの地産地消」の実現に向けたエネルギー政策を積極的に推進しています。 ◎「環境と経済の好循環システム」が構築されています。 ◎緑豊かな美しい自然環境が維持されています。 ◎省エネの取組がされています。	[3-4-1] 木質バイオマス活用促進に向けた取組	産業振興課	・資源、エネルギー、経済の持続的な地域内循環に向けて、令和5年度は、下記の取り組みを実施。 ①木質バイオマスセンターの稼働開始。 ②つべつウッドロスマルシェの開催(6月～11月の月1回開催) ③「つべつウッドロスマルシェ実証事業」にて、収集した原料の品質試験・意向調査および販売用途の精査を実施。また、勉強会(11/29)や報告会(1/24)を開催し、町民等への意見交換と情報共有を行った。 ④中間土場(旧本岐中学校グラウンド)に、町有林の林地残材を収集。 ⑤ウッドリームの木質チップボイラー稼働開始。	・住民及び関連事業者等との合意形成。 ・安定した材の確保。 ・専門知識を有した機関との連携協力。	・木質バイオマスによる複数施設への熱供給事業のため、基本計画を策定する。 ・木質バイオマスセンターにおける効率的なチップ生産体制の検討。 ・つべつウッドロスマルシェの参加者拡大に向けた取組周知。 ・化石燃料の価格に影響しないエネルギー地産地消のまちづくり。 ・住民等への勉強会を継続開催し、更なる合意形成を図る。	【評価】 着実に取り組みを進めているので今後も期待しています。
	[3-4-2] 再生可能エネルギーの推進・PR	産業振興課	・町広報(2023年6～11月号)にて、毎月「つべつウッドロスマルシェ開催」の折込チラシを配布。 ・町広報(2024年1月号)にて特集「木質バイオマスの取組」(11/29開催の再エネ勉強会)を掲載。 ・町広報(2024年3月号)にて特集「木質バイオマスの取組」(1/24開催の成果報告会結果)を掲載。 ・町広報くらしのガイド(2023年5月号)にて、補助金制度のお知らせ(太陽光、ペレットストーブ)を掲載。 ・町広報(2023年10月号)にて、補助金制度のお知らせ(ペレットストーブ)を掲載。 ・役場庁舎、ウッドリーム、キノスの暖房における省エネ運転に向けた調査と改善試験等を継続実施。	・地域資源である木に関心を持ってもらうこと。また、木を集める仕組みを町民に周知し、理解し、協力してもらうこと。 ・専門用語をわかりやすく簡潔に伝えること。 ・再エネの設備費用等コストが高いこと。	・「エネルギーの地産地消」の実現に向けて、町民に再生可能エネルギーの取り組みを周知するため、年1回広報等により再エネの取組を掲載する。	

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～
 施策 4-1 林業の振興「人・木・森を育て新たな価値を創出する未来へと繋ぐ森林産業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎林業が誇りある基幹産業として地域を支え続けています。 津別の林業・林産業ブランドイメージと全国的な知名度がより高まっています。</p> <p>◎林業が若者の憧れの職業になっています。若い世代に林業・技術が引き継がれています。</p>	[4-1-1] 労働環境の更なる向上とイメージ戦略による林業技術者及び担い手の確保	産業振興課	<p>・森林環境譲与税を活用し、町内事業体に新たに就職し、1年間就業した場合、補助金を交付している。 →令和5年度は3名が対象となり、補助金を交付している。令和2年以降、町内事業体に累計7名が継続就業している。 →令和5年度、札幌市より1名が、住宅準備補助金を活用し町内へ移住し、町内事業体に就業中である。</p>	新たに町内事業体に就業しているが、残念なことに、退職者も出ているのが現状である。女性の就業者が少ないこと。	北の森づくり専門学院で行う企業説明会に出席する、町内事業体に当該補助金説明資料や津別町パンフレット等を学生に配布し周知してもらう。	【評価】 スマート林業の推進に若い人材は不可欠と思います。町からの支援は有効と思います。
<p>◎森林・林業教育が学校や地域で行われ、子どもから大人まで津別の林業・木材加工技術に関する知識を持ち、全国の人に向けて町民一人ひとりがその魅力を発信できるまちとなっています。</p> <p>◎労働環境や安全面のさらなる向上により、安定した収入が確保され、意欲的で高い技術を持った林業従事者が多く働いています。</p>	[4-1-2] 林業の機械化・効率化の促進とスマート化に向けた調査研究	産業振興課	<p>・森林環境譲与税を活用し、町内事業体にて、労働者の安全及び効率化を目的として購入した装備品に対して補助金を交付している。 →令和5年度は1事業体16点の購入費に対し補助金を交付している。 ・森林環境譲与税を活用し、町内事業体にて、林業の機械化・労力の省力化を目的として購入した機械に対して補助金を交付している。 →令和5年度は4機の購入費に対して補助金を交付している。 高性能林業機械やリモコン式草刈機の導入による機械化・効率化が進んできている。</p>	・林業機械の納期が長いため、年度内申請、納品が難しいため購入時期に制限がかかる。	補助金を活用し、町内林業事業体が機械化や効率化を図り、若い人材を確保すること。	
<p>◎ICT化・機械化による効率化が進み、先駆的な技術・手法を取り入れた持続可能な林業が展開されています。</p>	[4-1-3] 林業・林産業のブランディングとプロモーションの推進	産業振興課	相富木材加工の加工技術や製品を周知するため、シラカバ製スプーンを10,000本購入し、町内飲食店等やイベント時に配布し普及啓発を図った。タウンニュースつべつ#83にて、相富木材の特集も配信された。	スプーンだと用途が限定されるため、多くの方に行き届く品も必要となった。	令和6年度以降オホーツク産材から津別町産シラカバ材を使用した、スプーンとタグを製品とし更に津別町をPRする。	【評価】 今回配布いただいた、タグが好評です！お客様にお渡しする際には、津別のこと、相富木材のこと、タウンニュースのことをお伝えしています。QRコードがついているので、みなさん動画もみてくれます。
<p>◎適正な施業と維持管理により、植え付けから伐採・利用までの理想的なサイクルが整い、木材需要に対応した、多様で健全な森林が形成されています。</p> <p>◎地域資源を活かした木質バイオマスなど再生可能エネルギーの利用が全町に波及し、温室効果ガス排出削減・災害防止などに寄与しています。</p>	[4-1-4] 津別産木材の地域ブランド化と利用促進	産業振興課	4-1-3と同じく令和6年から実施する。	町有林から出材されるシラカバを安定的に確保するのが難しい。		【評価】 ちょっと内容が違うかもですが、役場は町有林をふんだんに使った素敵な建物になっていますし、他の施設も、丸玉さんの合板・山上さんのイスなど町内の企業さんのものを多く使った施設が増えていると思います。こども園・公営住宅も素敵です。 外から来た人たちは街歩きをしながら、木をふんだんに使った各施設をみては(木の香りも含め)「やっぱり津別は愛林のまちなんですね。すごい！」と言っていました。 町全体が体感できる展示場のようなのです。 それがどこにあるのかを誰でもわかり、PRできるように、町内でそれらを購入できる場所や無料Wi-fiスポットもあわせて、マップもしくは動画にしたらいいのでは？と感じます。

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～
 施策 4-1 林業の振興「人・木・森を育て新たな価値を創出する未来へと繋ぐ森林産業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[4-1-5] 競争力強化に向けた町内企業との連携強化	産業振興課	令和7年度より実施する予定である。			
	[4-1-6] 木育の推進と学校教育での林業体験学習の充実	生涯学習課	【木育】「木のまちつべつ」で生まれ育った子どもたちに、津別の基幹産業である林業等への理解を深め、将来を担う人材になってもらうべく、小学校3・5年生、中学1年生の3学年で講師を招き、森で木に触れる体験や木工品製作を実施。 【林業体験学習】再生可能エネルギーの利用について、学ぶ機会としてペレット工場の見学を実施。	【木育】講師の助手として町内の方に協力を得ているが高齢化が進んでいるため、後任の選定について検討を行っている。	・学校運営協議会を活用し、授業の見える化及び担い手発掘を進める。	
		産業振興課	・5年生の木育授業では、校庭内に植栽されている樹木の葉を採取し、こすり描きを行った。 ・3年生の木育授業では、上里に行き天然林と人工林の違いによる説明を行った。 ・津別高校を対象にした、つべつ学については、バイオマスセンターを会場としバイオマスセンターの見学、グラップル、タイヤショベル、ドローン操作、薪割体験をした。	屋外での授業となるため、天候に左右される		

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-2 農業の振興「持続可能で創造性の高い魅力ある農業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎スマート農業と大型機械化が進み、津別ならではの創造性の高い農業が実現しています。</p> <p>◎計画的な農地整備、機械化により、安定的で生産性の高い農業が行われています。</p> <p>◎地域で作られた安全・安心で美味しい野菜・農作物を食べることができます。農業体験や「食育」を通じて、子どもたちが津別町の農業の魅力と価値をより一層感じられるようになっています。</p>	<p>[4-2-1] スマート農業の導入促進・大型農業機械の導入促進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・津別町農業協同組合が主体となり、NTTDコモ、北見工業大学と連携し、スマート農業実証プロジェクトが推進されている。令和5年度より携帯電波不感地帯解消のための実証試験を実施している。</p> <p>・補助事業を活用したスマート農機の導入 ◎令和2～3年度 産地生産基盤パワーアップ事業…GPS自動操舵システム100台、可変施肥対応型ブロードキャスター32台、車速連動装置付スプレーヤ37台、農薬散布ドローン2台 ◎令和4年度 持続的畑作生産体系確立緊急対策事業…農薬散布ドローン1台 ◎令和5年度 産地生産基盤パワーアップ事業…収量センサー付コンバイン4台</p>	<p>・物価高騰の影響により全ての農作業機械が数年前と比べ、3～5割ほど値上がりしていることから、全額個人負担での導入が困難な状況になっている。</p>	<p>・今後も補助事業の動向注視しながら、労働生産性の向上及び経営コストの縮減等を考慮した機械導入を進める。</p>	<p>【評価】 スマート林業と同様に農業も若手と町の支援が大切ともいいます。</p>
<p>◎「美味しい〇〇〇〇といえば津別町」という全国区の特産品が生まれています。</p> <p>◎グリーンツーリズムをはじめとする農業×交流の体験プログラムが充実し、新しい人のながれとリピーターが農業への活気をもたらしています。</p>	<p>[4-2-2] 「食育」の推進・農業体験の充実による農業の価値・魅力向上に向けた取組</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・グリーン・ツーリズム事業においては、商談会への参加や大阪市内の高校への誘致活動等の成果により、教育旅行受入に係る問い合わせが年に3件程度あるものの、200人以上の受入希望がほとんどであり、受入可能人数を大きく超えていることから、受入の実現には至っていない状況である。</p> <p>・津別高等学校のつべつ学のカリキュラムで生徒22名を対象に農業体験を実施した。</p>	<p>・教育旅行受入の基盤となるグリーン・ツーリズム協議会会員の減少が顕著であるため、会員の確保に向けた取組が必要である。</p>	<p>・引き続き、会員の確保に向け、農業者向けの説明会を実施するなど、事業のPRに尽力する。</p>	
		<p>生涯学習課</p>	<p>【農業体験】小学3年生及び中学2年生の総合の授業で生産者の思いを聞いた後に、収穫体験を実施。じゃがいも、かぼちゃの収穫や玉ねぎの選別等を体験している。また、津別小学校では、JA職員を授業にお呼びし、津別で生産している農産物や農家・JAの仕事について説明いただいている。</p>		<p>【農業体験】今後も、町の一次産業を体験し、知る機会を設けていく。</p>	
	<p>[4-2-3] 津別産食材のブランド化・生産者が主体となった6次産業化の推進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・町内の生産者が設立した「つべつTAKE ACTION」(旧:つべつTAKE ACTION MEETING)において、多種多様な検討課題がある中で、食材のブランド化、6次産業化等も協議されている。本団体にはJAや役場、まちづくり会社等も参画しており、官民が一体となって推進していく。現在つ型のチュロスの「つロス」を開発中。</p>	<p>・将来の農家戸数減少対策 ・「つロス」商品化に向けた課題解決等</p>	<p>・実現に向け、引き続き協議する。</p>	

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-2 農業の振興「持続可能で創造性の高い魅力ある農業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[4-2-4] 農業の担い手の確保・人材育成	産業振興課	<p>・新型コロナウイルスの影響が収まりつつある中、新たな労働力確保に向けて適宜JAとともに協議を行っている。令和4年度に1名、令和5年度にも1名、農業の担い手不足解消に取り組む地域おこし協力隊として計2名がJAつべつに着任した。令和3年度は新規法人が1社設立しており、令和2年度の新規就農者(酪農)1名についても継続して就農時の資金面のサポートや収益の安定に向けた体制整備をJAと連携を行ってきた。</p>	<p>・各種業界が人手不足である情勢であり、人材の確保が難しい。 ・町内では大規模な農場が多い中で、そもそも新たに新規就農で農業を始めることへの難しさがある(技術面、資金面)。</p>	<p>・新規就農者の受入と雇用拡大に向け、引き続きJAと連携を行う。</p>	
	[4-2-5] 強い農業・持続可能な農業に向けた基盤整備	産業振興課	<p>・本町の農業における生産能力の拡大と持続可能な農業の推進のために下記の事業を計画、実施した。</p> <p>1、土地改良等</p> <p>①国営農地再編整備事業(津別地区)H27年から継続 受益面積2,432ha、R5実績 区画整理工事501ha</p> <p>②道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)R3年新規採択 受益面積220.2ha R5実績 区画整理工事41ha</p> <p>②道営水利施設等保全高度化事業(津別2地区)R4年新規採択 受益面積313.6ha R5実績 管路工 L=1,800m ③農業水路等 長寿命化・防災減災事業(恩根地区)R4新規採択 受益面積533ha R5実績 電気計装機器および送水管路実施設計</p> <p>④農地耕作条件改善事業(共和地区)R4年から継続 受益面積25.83ha R5実績・完了 農業用排水路 L=56m</p> <p>④農地耕作条件改善事業(二又地区)R5年新規採択 受益面積34.74ha R5実績 農業用排水路L=15m</p> <p>⑤小規模土地改良事業 R5実績 暗渠排水 L=1,149m</p> <p>2、農業生産機能維持向上</p> <p>①多面的機能支払い交付金事業 鹿侵入防護柵・農業用排水・農業用作業道等の維持補修</p> <p>②鳥獣被害防止対策事業 有害鳥獣の駆除</p> <p>③環境保全型農業直接支払交付金事業</p>	<p>1、土地改良等 気象変化に伴い土地改良のニーズは高まっている。加えて農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う機械の大型化に対応することが必要となっている。 また、安定的な生活および営農を行うための営農用水等の整備が必要となっている。</p> <p>2、農業生産機能維持向上 農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う担い手の確保が必要となっている。</p>	<p>1、土地改良等</p> <p>①国営農地再編整備事業(津別地区) 継続</p> <p>②道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)継続 営農用水整備(津別2地区) 継続</p> <p>③農業水路等長寿命化・防災減災事業(恩根地区継続)(高台地区新規)</p> <p>④農地耕作条件改善事業(二又地区継続)</p> <p>⑤小規模土地改良事業 継続</p> <p>2、農業生産機能維持向上</p> <p>①多面的機能支払い交付金事業 継続</p> <p>②鳥獣被害防止対策事業 継続</p> <p>③環境保全型農業直接支払交付金事業 継続</p>	

4 産業・雇用「人・地域が輝いたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～
 施策 4-3 雇用確保・商工業の振興「多種多様な働く場を広げ誰もが笑顔で働くことができるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎まちなかに複合商業施設が整備され、町内で生活に必要な買い物をすることができます。 周辺に多様な業態の店舗が営業しはじめ、中心市街地ににぎわいが戻ってきています。</p> <p>◎世代間・異業種・同業種の交流が活発に行われ、横の連携による様々な活動が行われています。</p> <p>◎若者にとって魅力ある仕事があり、住みやすい環境が整い、若者の定住が進んでいます。</p> <p>◎老若男女、障がい者も高齢者も外国人も、働きたい人が働ける、魅力ある仕事や働きやすい環境が整っています。働き手のニーズと仕事のマッチングにより労働力不足が解消しています。</p> <p>◎店舗や経営者の事業承継が進み、若者へノウハウやスキルが受け継がれています。</p>	[4-3-1] 若者の定住促進策と連動した若者の雇用推進	住民企画課	<p>・コワーキングスペースJIMBAの利用促進により、テレワーク等の誘致促進を図った。</p>	<p>・コロナの影響が少なくなってきたが、一方で都市部への転入超過に戻りつつあり、地方移住に対する意識が全国的に弱まりつつある。</p>	<p>・立地条件(北見や女満別空港等へのアクセスの良さ、自然環境の豊かさ)を生かした、効果的な移住定住に関する情報発信を進めていく。 ・限られたチャンス内でのイベントへの参加など、推進のために最大限促進していく。</p>	<p>【質問】 テレワークの誘致促進はどのような取り組みをしているのか？ 北見市あたりは航空券の補助などもしているが、どのような人をどの程度誘致したいのか知りたいです。</p>
		産業振興課	<p>【再掲(1-1-4)】 ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の継続実施。R4から対象若年者の要件を一部緩和(正規雇用された日の属する月に町内に住所を有すこと者→正規雇用された日から1年以内において町内に住所を有する者)→R5新規実績:3事業者3名 ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の3年間の期限延長(R5～R7)。 ・UIJ新規就業支援事業の継続実施と町内企業への法人登録の推進。 →R5実績:1件</p>	<p>・量的に雇用機会はあるものの、求職者とのミスマッチが生じている。</p>	<p>・UIJ新規就業支援事業の継続実施。</p>	
	[4-3-2] 商業の振興と買い物環境の確保(複合商業施設の整備)	住民企画課	<p>【再掲(1-1)】 ・買い物環境の整備のため市街地に図書館、スーパーマーケット、バスターミナル、ハイヤー会社からなる複合施設「津別町大通地区コミュニティ施設(愛称 ウッドリム)」を整備し、11月より全ての機能が供用開始された。ドラックストアを含む「幸町地区コミュニティ施設」の整備については、設計が完了したところであり、R6年度に工事着工・11月完成を目指す。</p>	<p>・人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。</p>	<p>・町の活性化に資する取り組みを行うため、サツドラとの連携協定を締結する。</p>	
	産業振興課	<p>【再掲(3-3-1)】 ・起業等振興促進条例に基づき、2件の販売施設の改修及び機械等設備の更新を支援。町民の買い物環境の質の向上の一助になった。 ・R5もお買い物割引券を2度発行し、町内での購買促進の一助になった。 ・町内の新たな特産品・お土産品として、道の駅20周年を記念し作成された(株)相生振興公社の「クマヤキクッキー」と「クマヤキグミ」が発売された。</p>	<p>・既存店主の高齢化。</p>	<p>・起業の促進及び企業活動の支援を目的に起業等振興促進条例の期限を3年間延長。</p>	<p>【提案】 相生で作ったクマヤキを町なかで販売するなど、販路拡大に繋がれないでしょうか？もちろん相生だけのものとするメリットはあると思いますが、同時に町内需要を失っていることも否定できないのではないかと。</p>	

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～
 施策 4-3 雇用確保・商工業の振興「多種多様な働く場を広げ誰もが笑顔で働くことができるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[4-3-3] 多様な働き手・担い手による労働力確保	保健福祉課	令和5年4月から、障がい者の雇用の場として、役場庁舎の清掃業務が新たに加わりました。また、お試し就労(職場体験実習)を推進するため、令和4年12月に1市4町(北見市、訓子府町、置戸町、美幌町、津別町)の共同事業として、「障がい者雇用に関するアンケート」を実施しました。その後、町内ではお試し就労事業所として1事業所登録されました。 ・前年度に引き続き、人材活用センターの運営費(専門員の人件費相当額)を補助しました。	・新たな雇用の場は創出されましたが、町内の就労事業所はB型のみで、B型の就労に該当しない障がい者は就労の場がありません。 ・定年後のライフスタイルの変化や、既登録者の高齢化、新規登録者の減により、登録者数が減少傾向にあります。	・引き続き障がい者のニーズ把握や自立支援協議会・町内の関係機関と協議しながら、雇用や就労の場の拡大に努めていきます。 ・人活センターの募集を毎年度行う中で、町内企業への周知等で会員数の維持・確保に努めます。	【質問】 外国人労働者はどれくらい町内にいるのでしょうか。困りごとや外国人に対する取り組みは特になのでしょうか。 【評価】 外国人の雇用も大きなものとなってきていますが、町として補助は考えられますか？ 企業や日本語学校などの個人への支援、交流事業など。各事業所で雇用は力を入れて取り組んでいることだと思いたすので、町会社がプラットフォームになるのは良いかもしれませんが、各事業所ごとに雇用の募集の補助を出して実状を把握するというのも良いかもしれません。
		住民企画課	・北海道つべつまちづくり株式会社が行う求人求職マッチング促進事業に協力し、津別町内事業所の魅力や求人情報を集約したサイト『津別町仕事情報発信サイトワークINツベツ』を運用している。 →掲載事業所数:35件 ・支援制度や資格取得等について、随時お知らせとして掲載し情報発信した。	・津別町の実態を把握しきれておらず、実施すべき対策を明確にすることができていない。 ・町内の事業所の就職にサイトによる効果があったかわからない。 (フィードバックする方法がない)	・掲載情報の更新や新規掲載事業所を増加させる等、サイトを作っただけにしない取組みを進めていきたい。	【提案】 津別町での暮らしや、働きかたなどをもっと広報すべきではないか？他の市町村より一つでも抜けた特徴や取組みがあれば移住定住に繋がりにくいのではないか。 【評価】 ワークINツベツのHPは素晴らしく見やすいのですが、有効に利用、更新する必要があると感じました。 【評価】 ワークINツベツは、まずは津別の企業の情報や求人がわかるようになったことは素晴らしいことだと思いますが、次の段階として、つべつの仕事全般をサポートできるものになった方が良いと思います。 今はハローワークの情報のみですが、更に町内企業との連携を強めるためにも、次の段階として、独自の求人掲載ができるようにし、企業側・求職者側ともに、よりきめ細かなサポートができるようになったほうがいい(空き家バンクのように)のではと感じます。そのためには移住定住サポートデスクの人員増も必要だと思います。

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-3 雇用確保・商工業の振興「多種多様な働く場を広げ誰もが笑顔で働くことができるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[4-3-4] 各種交流促進によるスキル・ノウハウ継承の推進	住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道大学学生サークルHALCCと津別高校生との高大連携事業として、「調べる力」「考える力」「伝える力」を身に着けることを目標として、津別の未来を考えた高校生版総合戦略を作成。大学生を通じてまちづくり人材の育成を図った。 →高校生による提案18件(令和5年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案にとどまり、町の施策等に反映することが難しい。 ・HALCCメンバーの主体が大学生となってきており、本業である学業に支障が出ないように配慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「提案」のみに止まらず、形として残る「成果」として残せるようにしていきたい。 	<p>【質問】 この項目の趣旨は、なんでも自分達でやってきた時代を生きた高齢者から交流を通して生活の知恵や技術を教えてもらうという内容だったと思うのですが、そういった取り組みはされていますか？</p> <p>【評価】 高校生の提案が町の施策に反映されるにはどのような点に留意すべきか、HALCCとしてもその点を高校生に伝えて導いてあげなければ提案だけで終わってしまう可能性がある。</p>
	[4-3-5] 企業誘致・街並みの整備	産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・起業等振興促進条例補助金事業を活用し、R5に2企業2軒の新規アパートが新設され、街中の空き地が有効活用された。また、2企業の内1企業は町内初進出の町外企業。 		<ul style="list-style-type: none"> ・起業の促進及び企業活動の支援を目的に起業等振興促進条例の活用を推進していく。 	
		住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー、図書館、交通拠点の一体的な施設「大通棟」が完成し全ての機能が稼働した。これに続き隣に整備予定であるドラッグストアを誘致した「幸町棟」の設計が完了。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設が新たに整備されてきたことから、施設の場所を示す「サイン」(矢印標識)を高大連携の中でデザインする。 	<p>【提案】 リゾートっぽい街並みになると、都市部からも魅力的だと思います。</p>

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-4 創業支援「創造・革新・交流が生み出す好循環が人を惹きつけ新たなビジネスを創出するまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎新規起業への支援制度や体制、情報発信が充実し、創業・起業するために多くの人が集まっています。</p> <p>◎空き店舗を有効活用したビジネスの拠点や魅力的な店舗の開業、交流の場など、多様な広がりを見せています。</p> <p>◎事業承継が進み、自営業者の世代交代が円滑に進んでいます。</p> <p>◎町内に coworking space 等が充実し、自由で多様な働き方を受入れる環境が整っています。</p>	<p>[4-4-1] 創業・起業・交流のための空き店舗等の活用</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数:空家33件(うち新規24件)、土地38件(うち新規7件) →利用希望者延べ登録数:131名(うち新規44件) →マッチング件数:23件 ・ coworking space JIMBA の利用促進により、テレワーク等の誘致促進を図った。</p>	<p>・イベントの開催要件等については緩和されてきたものの、コロナの感染拡大を受け交流イベント自体が中止となることもあったため、町内の多世代・異業種交流は停滞気味である。 ・町外者の往来が制限が緩和されてきているものの、コロナ禍前の状態に戻ることはない。</p>	<p>・空き家バンク、 coworking space、地域おこし協力隊などの各種制度や施設の連携を通じて、空き家や空き店舗を利活用した起業等を推進していく。</p>	<p>【評価】 現在町内で起業したいと考えている方からの問い合わせはあります。人により、スケジュール感は違いますが、現在は、それぞれにあった物件を探しています。 また、コロナ前の状態に戻ることはないと記載されていますが、感覚値ですが、すでに交流という意味ではコロナ以前より増えています。本当に様々な方が津別にいられています。ただ、町内の若者との交流は減っていると感じています。こちらの動きが悪いのだと思いますが、最近、こういったときに、気軽に話を持ち掛けられるような関係性を津別の若者と築いていきたいと考えています。</p>
<p>◎町内・町外の人が交流できる多様な場があり、それぞれ活発な交流活動が行われています。</p>	<p>[4-4-2] 地元企業・経営者への支援</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・商工会や両信金が地元企業・経営者の支援を実施。 ・先端設備等導入計画の認定継続。 →R5実績:新規5件、変更1件 ・創業支援計画に基づく特定創業支援認定の継続。 →R5実績:認定1件 ・起業等振興促進条例補助金事業 →R5新規実績:認定10件 ・その他に小規模事業者若者雇用促進助成金事業、特産品販路拡大支援補助金事業、特産品販路拡大支援補助金事業も継続助成中</p>	<p>・経営者の高齢化、事業継承への支援。</p>	<p>・他町と連携した雇用対策の推進。</p>	<p>【提案】 経営者の高齢化により飲食店の減少やクリーニング店が廃業するなど、この地域に必要な店舗が軒並みなくなりこの先の未来に不安を感じる方が多い。既存店の事業承継や新規事業者への支援は今後益々重要ではないか。</p>

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～
 施策 4-4 創業支援「創造・革新・交流が生み出す好循環が人を惹きつけ新たなビジネスを創出するまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[4-4-3] 起業支援・人材育成	産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・起業支援については、町のホームページ、くらしのガイド、移住サイトの他、商工会や両信金、日本政策金融公庫とも連携し、情報発信を継続。町外の起業希望者の問合せも増えている。 ・創業支援計画に基づく特定創業支援認定の継続。 →R5実績：認定1件 ・起業等振興促進条例補助金事業 →R5新規実績：認定10件 		<ul style="list-style-type: none"> ・他町と連携した雇用対策の推進。 	
		住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊員を対象として、自主研修等に係る旅費及び研修負担金を負担することで、人材育成を図った。 →参加研修等：延べ4回 	<ul style="list-style-type: none"> ・隊員が参加できる研修が日程的に限られており、参加したくても参加できないという場合が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道つべつまちづくり株式会社と連携して地域おこし協力隊員へのフォローアップに取り組む。 ・町内外の地域おこし協力隊員同士の繋がりを作る工夫を行い、隊員同士の情報共有についても推進していきたい。 	<p>【評価】 地域おこし協力隊員は津別町にとって大切な人材なので手厚いフォローをお願いします。</p>

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～

施策 5-1 観光地域づくりの推進「地域資源の価値を高める持続可能で戦略的な観光地域づくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎「〇〇といえば津別町」と知名度のある特産品や観光地があり、津別町産の物を食べたり、購入できる場所があります。</p> <p>◎魅力発信人材やガイド、外国語対応可能な人材が育ち、全国・世界各国から観光客が訪れるようになっています。需要に合った宿泊施設が整備されています。</p>	[5-1-1] 観光プロフェッショナル人材による観光地域づくりに特化した組織の形成と推進	産業振興課	NPO法人津別観光協会の自立化に向けた支援。	観光地域づくりの中核となる人材の不足。	・NPO法人観光協会を中心とした、観光地域づくりの人材育成。 ・観光事業者の横の連携。	
<p>◎魅力発信人材やガイド、外国語対応可能な人材が育ち、全国・世界各国から観光客が訪れるようになっています。需要に合った宿泊施設が整備されています。</p>	[5-1-2] インバウンド対応の推進	産業振興課	多言語による観光デジタルマップを作成。	インバウンドに対応した案内看板等が未整備。	・観光デジタルマップの利用促進。 ・インバウンドに対応した観光案内看板の作成検討。	
<p>◎広域連携しながら道東の定番観光ルートに津別が入っており、多くの人たちが立ち寄るまちとなっています。</p> <p>◎「稼ぐ力」を引出し、持続可能で地域資源の保全をしながら観光客を受け入れる観光振興体制が整っています。</p> <p>◎エコツーリズムによる人的交流・観光が活発に行われています。</p>	[5-1-3] 持続可能な観光地域づくり	産業振興課	<p>・エコツーリズムの推進に向け、令和5年10月5日に有識者による講演会等を開催 講演者：(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロ会長 多田 稔子 氏 演題：「世界に開かれた持続可能な観光地づくりを目指して」 出席人数：58名 トークセッション「上里地区におけるエコツーリズムの可能性」</p> <p>・エコツーリズムの推進に向け、令和5年11月8～11日に先進地視察を実施 視察先：東京都檜原村 埼玉県飯能市 視察者：町職員2名 観光協会事務局長 観光系NPO法人代表 計4名</p>	・エコツーリズム推進協議会(仮称)を立ち上げる。に向けて、複数の関係各所と協議しなければならない。	・エコツーリズム推進協議会(仮称)の立ち上げる。 ・協議会によるエコツーリズム全体構想策定に係る協議を開始する。	
	[5-1-4] 町民が実感できる地域の魅力づくりと魅力発信人材の育成	産業振興課	・3町広域観光協議会と連携し、町民を対象に屈斜路カールデラ外輪山トレイルルートのモニターツアーを実施する予定であったが、狩猟期間と重複したため中止になった。	観光への関心度。	・エコツーリズム推進協議会(仮称)の情報発信。	【評価】津別は「網走川の源流」であり、ほかにない魅力があると思います。釣りなどの体験観光に力を入れられたら良いと感じます。森と川を生かした体験観光に力を入れて、地域の釣りや山が趣味の方たちを巻き込む仕組みができればよいと感じます。

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～
 施策 5-1 観光地域づくりの推進「地域資源の価値を高める持続可能で戦略的な観光地域づくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
	[5-1-5] 広域連携の強化と観光インフラ整備の推進	産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・3町広域観光協議会での屈斜路カルデラトレイルルート整備事業の継続実施。 ・阿寒摩周国立公園広域観光協議会で情報発信の継続実施。 ・エコツーリズムの推進に向け、令和5年10月5日に有識者による講演会等を開催 講演者：(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロ会長 多田 稔子 氏 演題：「世界に開かれた持続可能な観光地づくりを目指して」 出席人数：58名 トークセッション「上里地区におけるエコツーリズムの可能性」 ・エコツーリズムの推進に向け、令和5年11月8～11日に先進地視察を実施 視察先：東京都檜原村 埼玉県飯能市 視察者：町職員2名 観光協会事務局長 観光系NPO 法人代表 計4名 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化により、町内観光施設の、修繕箇所が毎年複数箇所発生しており、多額の修繕費がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した町内観光施設の改修計画の検討。 ・広域連携による、トレイルルート開通に向けた準備。 ・エコツーリズム推進協議会(仮称)を立ち上げる。 ・協議会によるエコツーリズム全体構想策定に係る協議を開始する。 	<p>【提案】 オホーツクとして人を呼べるような仕組みになって、津別にも魅力的な体験ができると良いなと思います。</p>

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～

施策 5-2 地域交流の推進「人と人、地域と地域 つながりから多彩な魅力と価値が生まれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎交流拠点等の整備(図書館、複合商業施設等)がなされ、人々の交流が活発に行われています。</p> <p>◎南アルプス市、船橋市、台湾二水郷などの姉妹都市や、スポーツ合宿のつながりが継続発展し、全住民が親しみを帯びた交流が行われています。</p> <p>◎スポーツや青年活動等、町内のそれぞれの人にあったさまざまな形で交流できる機会づくりが行われています。</p> <p>◎人口減少に伴い、人不足から各団体の活動を廃止・縮小するのではなく、既存の価値観にとらわれず現状に合った新たな活動が行われています。</p> <p>◎定住自立圏構想を活用した取組が積極的に行われています。</p>	[5-2-1] 多世代交流や異業種間・職場間交流促進事業	住民企画課	【R4年度から】 ・「1-4-5 「津別町まちおこし大学ver.2.0」の実施」の検討に本取り組みの要素を盛り込んでいく。	—	—	
	[5-2-2] 姉妹都市やスポーツ合宿の来町者と町民との交流事業	総務課 (姉妹都市)	・南アルプス市と祭事にて物産販売を相互で実施した。 ・南アルプス市とともに、能登半島地震被災地支援を実施した。 ・台湾二水郷と友好都市提携10周年を迎え、津別から訪問団を派遣した。	コロナ禍による空白期間があり、引継ぎがない中での実施のため、準備等に時間を要する。	相互訪問を再開し、交流を深めていく。	【質問】 船橋市との交流はありますか？
	[5-2-2] 生涯学習課 (スポーツ合宿)	・道外チームの受入も再開し、徐々に活気を取り戻してきた。常連チームに留まらず新規チーム、スポーツも広がるよう誘致を進めたい。 →サッカー1団体、グレステンスキー7団体、ラグビー2団体、トランポリン1団体、野球3団体、バスケットボール5団体 延べ人数400名	・宿泊施設の確保 ・近隣市町との連携(練習試合相手など)	・新規チームやスポーツの開拓	【提案】 津別町民だけでなく北見市などにも綺麗なグラウンドや球場を貸せると良いかもしれません。すごく綺麗なので。 【提案】 町内宿泊施設の不足や指定管理者が辞めてしまうなど、ハードとソフトの整備を進めていかなければ合宿の受け入れや誘致など、持続的な取組みが困難になってしまうのではないか。	
	[5-2-3] 定住自立圏構想による行政や各機関の連携や交流	住民企画課	・北見地域定住自立圏形成協定の中で協議していた、「地方圏において誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みづくりプロジェクト」において、令和5年4月より北見地域青年後見センターへの一部連携を開始した。		・他分野においても、連携の可能性を模索していく。	

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～
 施策 6-1 協働の推進「民間と行政が連携した行政運営とまちづくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当 部署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
◎実施主体が中心となり行政は支援するスタイルができています。 ◎自治会や町民全般もより高齢化するので、民間の活動に頼った行政運営も実施されています。 ◎異業種、異企業、異集団が広範囲につながり連携して町の発展に貢献しています ◎行政、各企業・団体の若い世代が集まり、意見交換できる環境が整っています。 ◎働き方改革推進協議会などで行政、民間が課題共有をしています。 ◎行政課題、企業課題、諸課題を官民で共有し協働・連携で解決することで「まち育て」をしています。 ◎自民の間で人事交流、職員相互派遣が実施されています。 ◎民間企業等による高齢者の見守りなどが小まめに行われています。 ◎SDGs(持続可能な開発目標)が定着しています。	[6-1-1] 官民間での人事交流の実施(人材育成と連携基盤の形成)	総務課	北海道や広域連合との人事交流は行っていますが、官民間での人事交流には至っていません。	限られた職員数のため、民間との人事交流には至っていない。	官民連携による事業の推進、展開をしていく事により、人事交流についても検討していく。	【提案】 夏祭りなどは官民人事交流になっているのかとも思います。21の森も民間が半分入るなど何かの事業を一緒に行えて楽しめるものであると良いですね。
	[6-1-2] 自治会活動、行政活動などや協働事業の時代に即した在り方の研究検討	住民企画課	・自治会活動、行政活動や協働事業の在り方などを研究・検討するための意見交換などの活動を行うことができていないが、他市町村の状況、事例などの情報収集を行っている。	・高齢化により担い手不足が顕在化してきている。	・自治会活動、官民一体の協働事業を研究・検討するための機会の場を設けるなどの支援を行っていく。	【質問】 自治会活動は各自治会に委ねているかと思うが、自治会の存続自体が困難な状況となっており、自治会長の押し付け合いに発展している。自治会がなくなることに困りはしないが、町として自治会を存続させる必要があるのであれば今後についてどのように考えているか。
	[6-1-3] 関係人口の増加、移住促進事業(新たなプレーヤー(まちづくり活動人口)の増加)の強化	住民企画課	・道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型コワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスにおいて、多世代交流、異業種交流が図られた。 →地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数743名、多世代・異業種交流イベント31回(令和5年度) ・リノベーションウィーク2023を4月に実施し、空き家という共通点で多世代、異業種の交流が生まれるきっかけを生み出した。 →参加者延べ約103名(令和5年度) ・関係人口優待の取組みとして町内施設を町民価格で利用できる等の特典がある「つべぶらカード」の発行を行った。 →発行枚数5枚(令和5年度)	・関係人口優待の取組について、カード発行の申請メリットを感じづらいため、想定していた関係人口の創出に繋がっていない。	・高大連携事業以外にも、HALCCと連携しながら関係人口創出に向けた取組を検討・実施していきたい。 ・関係人口優待の取組について、カード発行することに対してメリットを感じてもらえるよう取組内容の再検討を行っていく。	【提案】 関係人口はいろんなところでありそうです。新たなものよりも今あるものを一回ブラッシュアップするのも良いと思います。日フィルはもちろん「でてこいさん」の活動、新たなJINBAやナンモンモノのお客など。そこから新たな出会いがあるかもしれません。 【提案】 関係人口優待制度については、魅力的な特典内容の創出や町の取組みとして大きく発信しなければ効果的な取組みに発展しないのではないかと。

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-2 行財政「効率的・効果的な行政運営と安定的な財政基盤の確立」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎AI(人口知能)、OCR(光学式文字読取装置)、RPA(ロボットによる業務自動化)を活用した事務の効率化が進んでペーパーレス化が定着しています。</p> <p>◎柔軟に人を動かせる組織体制が確立されています。(労働力の機動的配分)</p> <p>◎電子化等により文書管理の徹底が済んでいます。(集中的に移行作業を実施)</p> <p>◎人口減少や予算規模が縮小しても持続可能な行政運営体制が確立されています。</p>	<p>[6-2-1] ICT(情報通信技術)機器・技術の積極的な導入による業務効率化</p>	<p>総務課</p>	<p>自治体情報システムの共通化・標準化について対応を進めており、令和7年度にシステムの更新を予定している。</p>	<p>オンライン申請等のデジタル化が進み、紙から電子データへの転換が進む中、役場内部の事務処理(会議、決裁、文書管理)は紙のままとなっており、デジタル化の恩恵(自動化、検索性、省スペース)を受けられず、さらには紙と電子データの変換作業、確認作業に労力を取られている。</p>	<p>業務用ネットワークの無線化と、職員の業務端末を持ち運びが可能なノートPC型にすることで、議会や会議等のペーパーレス化を全庁的に導入する。また、電子文書管理、電子決裁システムの導入に向けて、検討を行う。</p>	<p>【提案】 町の会議も資料が多いのであればPDFでほしい。印刷は各自がベースで、希望者に配布ということでも良いかと思えます。議事録もAIでできるようにしてあげたら、業務改善になるかと思えます。</p> <p>【提案】 ICTの導入は庁舎内の業務効率化のみに限らず、個人や民間事業者から行う各種申請等にも電子申請で対応して頂けると無駄のない効率的な手続きになると思う。</p>
<p>◎ICT(情報通信技術)の有効活用、文書のデータベース化の徹底が済んでいます。</p> <p>◎行政運営ノウハウ集、業務マニュアル(手順書)の完備による行政運営が効率化しています。</p> <p>◎行政運営での迅速な意思決定と適時情報共有化ができています。</p> <p>◎ICT(情報通信技術)等の活用により事務作業が効率化・自動化されています。</p> <p>◎柔軟に職員の配置を動かせる仕組みができています。</p> <p>◎北見地域定住自立圏が締結され連携が進んでいます。</p>	<p>[6-2-2] 働き方改革を含めた行政組織改革・運営</p>	<p>総務課</p>	<p>組織内での情報共有を図るため、組織共有のメールアドレスの運用を開始した。これにより、担当者が不在時の際も業務を止めることなく継続することができるようになった。</p> <p>オンライン申請フォームの導入を行い、町民からのアンケートや、意見募集についてWEBでの回答を可能とした。これにより、紙でのアンケート結果のデータ化の作業が大幅に削減された。</p>	<p>働き方改革の取り組みを導入する際、これまでのやり方から新しいやり方へ移行する作業が必要となり、全庁的に業務多忙の状況であることから移行作業の時間を確保することが難しい。</p>	<p>担当部署のシステム改善要望を取りまとめて、改善手法について検討を行う。</p> <p>生成AIを用いた業務の効率化について検討を行う。</p>	<p>【提案】 縦割りで横の連携がないように思えるので、スケジュールなどICTを各部署で共有にしてよりよい行政につなげてほしい。人材が少ないので、民間から役所の会議に出席しようとすると同じ日に設定されるなどある。プロジェクトベースの部署をまたぐ事業もあっても良いかもと素人ながら思います。</p>

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～
 施策 6-3 情報発信の強化「情報発信力の強化と戦略的シティプロモーション施策の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	
◎SNS等を活用した次世代型の情報発信(双方向即時連携)が整備されています。 ◎プロフェッショナル的な統一性のある発信によるプロモーション展開が行われています。 ◎子育て情報が整理されているプラットフォームが整備されています。 ◎ブランドメッセージの確立によるシティプロモーションが行われています。	[6-3-1] ICT(情報通信技術)を活用したコミュニケーションネットワーク整備(次世代ネットワーク)	総務課	・ささえネット@つべつのLINE版で、町のお知らせ等の情報配信を実施した。(4月7日時点LINE登録者数420名)	・登録者に限定した情報配信で、不特定多数に対する情報発信手段がない。	・ささえネットを常時周知して、登録者数を増やし、素早い情報発信・伝達をする。	【提案】 LINEは良いと思います。各部署の情報も統一できるようにして、町民が進めあえるものができればと思います。マチイロは落としていますが、手順の多さや普段使っていないので普及は厳しいと感じます。広報は頑張っていると思いますが、社会教育や学校などチラシがおおく冊子にまとめられたと思います。
		住民企画課	・広報紙などで定期的にアプリ「マチイロ」を周知し、より多くの住民への情報発信の強化を行った。 ・総務省が行う「公的機関公式ホームページのJIS規格対応状況調査」にて全2,441ページで問題なくウェブアクセシビリティを保っていることを確認した。 →令和4年度マチイロ登録者216人 →令和5年度マチイロ登録者289人	・広報つべつにてアプリの周知を行っているが、定着するまでに時間がかかると思われる。	・SNS等の活用などの情報配信ツールの活用を増やし、ネットワークを利用した情報発信を強化し、津別の情報をより素早く伝える。	
◎必要な人が必要なときに必要な情報を受け取れる仕組みが整っています。 ◎デジタルサイネージが町内に数多く設置されています。	[6-3-2] プロモーション媒体イノベーション事業及び広報人材育成事業	住民企画課	・広報紙編集ソフトでの広報紙作成を行い、よりわかりやすい、見やすい紙面の作成を行った。また、新しいカメラを購入し、よりきれいな写真で情報を伝えることができた。 →住民満足度調査「行政の情報発信等」の「満足」、「おおむね満足」の割合71.5%(令和5年度)	・町の情報源となる広報つべつのイノベーションができていない。	・全町民が見やすい広報つべつの作成を行う。	